

急就篇總譯

故勝海舟伯題字

急就篇總譯  
百餘字文字  
故勝

### 急就篇總譯 目次

單語	一
問答之上	一一
問答之中	二九
問答之下	九七
散語	一三三
附	
家庭常語	一八三
應酬須知	一九一
急就篇總譯	一

### 急就篇總譯 目次終

### 急就篇總譯

善鄰書院編輯

①	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五
四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三
五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六
六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九
八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二
九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百	一百一	一百二	一百三	一百四	一百五
一百六	一百七	一百八	一百九	二百	二百一	二百二	二百三	二百四	二百五	二百六	二百七	二百八
二百九	三百	三百一	三百二	三百三	三百四	三百五	三百六	三百七	三百八	三百九	四百	四百一
四百二	四百三	四百四	四百五	四百六	四百七	四百八	四百九	五百	五百一	五百二	五百三	五百四
五百五	五百六	五百七	五百八	五百九	六百	六百一	六百二	六百三	六百四	六百五	六百六	六百七
六百八	六百九	七百	七百一	七百二	七百三	七百四	七百五	七百六	七百七	七百八	七百九	八百
八百一	八百二	八百三	八百四	八百五	八百六	八百七	八百八	八百九	九百	九百一	九百二	九百三
九百四	九百五	九百六	九百七	九百八	九百九	一千						

一萬 十萬 百萬、千萬 一億  
 一つ 二つ(數量ニハ) 三つ 四つ 五つ 六つ 七つ(3) 八つ 九つ とう 十ぐらゐ。

一日(朝ヨリ夜ニ至ル) ふつか みつか よつか いつか ひ  
 いか なのか やうか こゝのか とうか

一年 二年 三年 四年 五年 五年餘 滿十年。  
 一ヶ月 二ヶ月 三ヶ月 四ヶ月 半月餘。  
 朔日(タ) ふつか みつか よつか とうか 幾日(以上ハ日ノ順序)。

第一 第二 第三 第四 第五。  
 (4) 日曜日、月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日  
 先週 來週 一週間。  
 正月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月

十月 十一月 十二月。

一秒 一分 十五分 一時 一時半 一時五分過。

一圓 十錢 十五錢 一錢 一圓二十五錢。

一錢(額面十文ノ銅貨ニシテ銀貨十錢ニ對シテ三四十枚ニ換算ス。但シ其日ノ相場ノ高低ニ依リ一定セズ)。

(5) 十匁 一匁 一分 銀十七匁五分。

私 彼れ 誰れ 前達 私共 彼等 此處 彼處  
 何處 これ(この) あれ(あの) どれ(どの) こんな あんな  
 どんな 何。

前後 上下 左方 右方 中程 南方 北方 東西南  
 北。

(6) 時 今日 明日 昨日 一昨日 明後日 先月 今月  
 來月 今年 明年 昨年 一昨年 明後年 午前 午後

白菜 家鴨 きんこ(乾海) はむ 鱧の鱠 燕の巢(南洋ノ海岸ニ産スル燕) 桃  
支那人ノ最モ珍重スル食料品ナリ 蟹 はまぐり 昆布 栗 林檎 蜜柑 ぶだう 胡桃 なため

柿 くすり 阿片。 家 部屋 門(入口) 塀(垣) 井戸 庭 客間 便所 庭園  
 二階 役所 學校 兵營 税關 會社 外國商館 郵便局  
 造兵廠 料理店 ほてる 宿屋。

衣服 帶 帽子 短靴 木綿 金巾 ふらんねる 羅紗  
 羊の毛皮 綿入れ 羽織 づぼん 靴足袋 衣囊 はんか  
 ち 紡績絲。

(11) 道具 機械 ていぶる 椅子 寢臺 時計 懷中時計  
 傘 あかり 書物 紙 筆 墨壺 印 硯 煙管 鍵 錠

洗面器 茶飲み茶碗 急須 小皿 箸 匙 盃 花瓶 鐵  
 鍋 ぶろき 鐘 庖丁 錐 鋏 鋸 刷毛 小楊枝 小箱

塗物 扇 旗 樂器 喇叭 太鼓 胡弓 枕 寢具 毛  
 布 袋物 繩 籠 刀 大砲 小銃彈 兵器彈藥 車 船

自動車 汽船 帆 マツチ 商品(或ハ貨物) 雜貨 外國錢  
 銀貨(銀元ハ文) (12) 紙幣 同上 爲替證書。

契約書 規則 證據 物品 値段 事柄(或ハ用件) 色 經費  
 性質 目的 機會 關係 社會 教育界 實業界 政治

機關 代表 科學 言語 調子 議論 體面 風俗 力  
 運命 酒豪。

大小 遠近 生熟 紅白 堅い 緩い 長短 有無 勝敗  
 悲喜 惜しい (13) 憐れ 堅牢(丈夫) 弱い 賑か 静か 盛ん

伶俐 愚か 立派 醜い 應揚(或ハ) 肝要 面倒 主要  
なる 細かき 笑ふ 泣く 樂む 鬱(或ハ) 知る 見知る  
話す 相談する 希望する 計畫する 處理する 養ふ  
散歩する 眠る 片付ける 聞合はす 紹介する 交渉す  
る 賛成する 反對する 委任する。  
御尊父 御母堂 御令兄 御友人 御令閨 御子息 御令  
嬢 御國 御郷里 御住居(14) 御苗字 御歳 御店 私の家  
舍弟 私の友人 家内 悴 私の娘 私の國 私の郷里  
私の苗字。  
世界各國 英國 佛國 獨逸 露國 米國 桑港 ワシン  
トン チベット 蒙古 滿洲 奉天 北京 上海 芝罘  
南京 下關(南京停車場  
埠頭ノ所在) 浦口(津浦鐵道  
ノ終點) 武昌 漢口 香港

廣東 青島 タンク(白河河口  
船着場) 張家口 山海關 哈爾賓  
(15) 浦鹽斯德 歸化城(綏遠省  
ニアリ)  
揚子江 黄河 漢水 黑龍江 洞庭湖 泰山(山東省  
ニアリ) 華山  
(陝西省ノ華  
陰縣ニアリ) 北京漢口線 天津浦口線 上海南京線 省の  
首府 都市。  
蒙古の毛皮(口ハ蒙古ノ  
入口ノ意) 南京縐子(南京ヲイフ江  
寧トイフ) 杭州緞子 湖州の  
生絲(浙江省ノ  
湖州府) 端溪硯(端溪ハ廣東省ノ  
高要縣ニアリ) 紹興酒(浙江省ノ紹興府  
ニテ造ル酒ナリ)  
朝鮮人參 滿洲の葉煙草 日本刀。  
儒教 佛教 フイフイ教(つとほめ  
教) 耶蘇教 孔子廟 關帝廟

三國時代ノ關羽ヲ祀ル清朝時代  
ハ專ラ武ノ神トシテ崇メラル  
ヨリ西藏ニ入リ今日。  
蒙古滿洲ニ行ハル。  
堯舜(堯帝舜帝) 文王(周ノ時代ニ聖人ト稱セ) 孔子(周時代  
ノ聖人) 孟子(戰

大賢人(三國時代) 秦の始皇帝(16) 漢の高祖 諸葛孔明(三國時代ノ蜀ノ  
宰相字孔明) 曹操(三國時代  
ノ立物) 陶淵明(高士) 李太白(名ハ白字ハ太白  
唐ノ詩人ナリ) 白樂天(名  
居易唐ノ名臣ニ  
シテ詩ヲ能クス) 蘇東坡(名ハ軾宋  
ノ文章家) 王陽明(名ハ守仁  
明ノ大儒) 曾文正公  
(名ハ國藩清朝中興  
ノ名臣文正ハ諡)  
四書(大學中庸論語  
孟子ヲ云フ) 五經(詩經書經易經春  
秋禮記ヲ云フ) 史書(歴史  
ノ書) 唐詩(唐詩  
首ヲ略シ) 小説 水滸傳(元ノ施耐庵  
ノ著ナリ) 紅樓夢(小説ノ名トモ云フ清ノ乾隆  
時代曹雪  
芹ノ名著) 康熙字典(清ノ康熙時代ニ勅命ヲ  
以テ編纂セル字典ナリ)  
一點(點トハ) 一鈎(ハネル) 一橫(横ニ引ク) 一豎(縦ニ引ク)  
三點水(三水) 草字頭(草冠リ) 走之兒(走ノ兒トシテ  
冠リ) 提手(手偏キ) 走之兒(走ノ兒トシテ  
冠リ) 寶蓋兒(宝  
冠リ)  
十干 甲(キノエ) 乙(キノト) 丙(ヒノエ) 丁(ヒノト) 戊(ツチ  
ノエ) 己(ツチノト) 庚(カノエ) 辛(カノト) 壬(ミヅノエ) 癸

(ミヅノト)。  
十二支 子(ネ) 丑(ウシ) 寅(トラ) 卯(ウ) 辰(タツ) 巳(ミ) 午  
(ウマ) 未(ヒツジ) 申(サル) 酉(トリ) 戌(イヌ) 亥(キ)  
商用數字 一 二 三 四 五 六 七  
八 九 十

單 語 九

# 問答之上

(一) 來ましたか。 來ました。

【註】「ア」現在及過去ノ完了詞ナリ。「麼」疑問詞。

(二) 出かけましたか。 出かけました。

【註】「走」ハ出カケルナリ、行クナリ、又歩ムナリ、但シ走ルト誤ルベカラズ、又出發ト譯ス。

(三) 行きましたか。 行きました。

【註】「去」ハ去ルニアラズ行クノ意。

(四) 著きましたか。 著きました。

(五) さうではありませんか。 さうです。

【註】「是」ハ左様デアル。「不是」ハ左様ニアラズノ意、肯定ト否定ヲ結合

スル時ハ疑問句トナル、既ニ疑問句トナレルモノニ對シテハ「麼」ヲ省ク。

(六) 良いですか。 良いです。

【註】「好」ハ良ナリ、宜シキナリ、好ムノ場合ハ去聲。

(七) 買ひますか。 買ひません。

(八) 宜しいですか。 宜しいです。

【註】「可」以不可「以」ハ差支ヘ無キヤト云フ意。

(九) 要りますか。 要りません。

(一〇) 終わりましたか。 終わりました。

(一一) 有りますか。 有りません。

【註】「没」有「ハ」無シノ意。

(一二) 幾つ有りますか。 五つ有ります。

(一三) どれ程有りますか。 三十有ります。

【註】「幾個」ハ少数ニ對シ「多少」ハ多數ニ對シテ使用ス。

(一四) まだ有りますか。 まだ一つ有ります。

【註】「還」ハ「ハ」ト發音シ尙ホ「マ」ハ「ダ」ノ意。

(一五) 何人ですか。 十數人です。

(一六) 幾日位ですか。 五六日です。

(一七) どうしましたか。 病氣です。

【註】「怎麼」ハ如何ドウシテ、ドンナト云フ意。

(一八) 如何です。 少し宜しう御座います。

【註】「一點兒」ハ少シノ意ニシテ形容詞動詞ノ下ニ置カス。

(一九) 御在宅ですか。 居ります。

【註】「在」ハ「ハ」ニアルノ意。

(二〇) 何か御用ですか。 何も用はありません。

【註】「甚麼」ハ「ナニ」。「ドンナ」トイフ意ニシテ名詞ニ連結セラル、語ナ

(二一) どれが好きですか。 これが好きです。

【註】「愛」ハ好ムノ意。「那」ハ上聲ニ發スレバ「レ」ノ意味トナル。

(二二) 出來ますか。 少し出來ます。

【註】「會」ハ「ア」タウ、技術ニ就イテイフ、故ニ「上」手トモ譯ス、能ハ能力ニ關

(二三) 今日は幾日ですか。 今日は十日です。

(二四) いつが日曜ですか。 明日です。

【註】「幾時」ハ「イツ」ノ意、何時ニ非ズ。

(二五) あの人は來ますか。 屹度來ます。

【註】「準」ハ必定、確實ノ意。

三六御暇が有りますか。 有ります。

【註】「御暇」ハ暇ノ意。

三七御出になつた事が有りますか。 一度行つた事が有ります。

【註】「御出」ハ過去詞ニシテ「出」セシコトアリノ意。

三八何月に御出かけですか。 八月に出かける積りです。

【註】「御出」ハ「出」セシコトアリノ意。

三九どういふ風に行きますか。 陸行します。

【註】「陸行」ハ何處何處ヨリノ意ニシテ「陸」ヲ表ス。

四〇これは何と云ひますか。 油炸果です。

【註】「油炸果」ハ小麥粉ヲ捏ネテ伸ベシ油ニテ揚ゲタルモノニテ朝ノミニ食ス。果ハクオイト發音ス。

四一何ですか。 水煙管です。

四二何か變つた事が有りますか。 別段有りません。

【註】「新聞」ハ新シキ出來事ノ意。

四三今日は何曜日ですか。 水曜日です。

四四あの人は歸つて來ましたか。 今しがた歸りました。

【註】「歸」ハ最も近キ過去詞ニシテ「今」シカカノ意。

四五あの人は何をして居ますか。 本を見て居ます。

四六あの人は何處に住んで居ますか。 市外に住んで居ます。

【註】「在市外」ハ位置ヲ示ス前置詞ナリ。

四七あの人はどんな商賣をして居ますか。 洋品店を出して居ます。

【註】「商賣」ハ商賣ノ意。

四八誰が來ましたか。 李さんが見へました。

四九何方へ御出ですか。 學校へ參ります。

【註】「上」ハ行先ヲ示ス前置詞ナリ。

五〇これは何處で御求めになりましたか。 上海で買ひました。

五一何の役に立ちますか。 色色の役に立ちます。

五二御飯は出來ましたか。 もう直さず。

【註】「得」ハ出來上ルノ意。

五三湯が沸きましたか。 一寸で沸きます。

【註】「開」ハ沸騰ノ意。風呂ノ沸ク如キニハ「水熱了麼」トイフ。一會兒ハ上聲ニ發シ備ノ時間ヲイフ。就ハ直チニノ意。

五四どの御茶を入れますか。 紅茶をお入れなさい。

【註】「湖」ハ茶ニ湯ヲ注ギ込ム意。罷ハ命令詞何々セヨノ義。

五五御苗字は。 張と申します。

【註】「水煙袋」ハ( )ノ形ヲナセル煙管ニシテ中ニ水ヲ入レ煙ハ水ヲ透シテ口ニ來ルナリ。

三二幾何ですか。 銅貨十枚です。

三三値は幾何ですか。 十五錢です。

三四幾何ですか。 二圓五十錢です。

【註】「共」ハ合計全部ノ意。

三五今何時ですか。 もう直さ八時です。

【註】「快」ハ最早ノ意味ニ解ス。

三六此時計は合つて居ますか。 少し遅れて居るでせう。

【註】「慢」ハ遅キ意。機械ノ動作ニ就イテ「遅」ハ推定辭ニシテ「遅」ハ「遅」キ意。

三七何を居ますか。 新聞を見て居ます。

【註】「呢」ハ疑問句ノ句尾ニ附シ「現」ハ現在句ノ句尾ニ附ス。

五三御郷里は何方ですか。郷里は湖北です。

五三早く御起きでしたか。一寸前に起きました。

【註】右ノ句ハ早朝ノ挨拶ナリ。「起來」ハ起キ上ル意。廢ハ省略セラレ、  
「起來會兒」ハ一會兒ノ略語ニシテ起來有一會兒、即チ起床シテ  
カラ間モ無キ意。

五四御茶は御済ましですか。済みました。

【註】「喝過了」ハ確實ニ完了セル意。

五五何方から御入來になりましたか。宅から参りました。

【註】「從及打」ハ前置詞ニシテ何處ヨリノ意。

五六御飯は御済ましですか。済ませました。

【註】右ハ挨拶語、偏ハ自分一人先キニ済マセン意。

五七どうぞ御掛け下さい。どうぞ。

【註】「請」ハコノ場合どうぞノ意トナル、凡ソ敬辭ニハ「請」ヲ加フ。

六五支那語をお話しですか。少しばかりやります。

六六誰さんを御存じですか。一度會つたことがあります。

【註】「認得」ハ單ニ目ヲ以テ知ル意。「得」ハ「記得」(記憶スル)、「曉得」(知ル)ノ  
如ク事後ノ意ヲ含ム。

六七お疲れですか。さう疲れたとも思ひません。

【註】「乏了」ハ疲勞ノ意、乏シキニアラズ。

六八お早く御入來でしたか。私も唯今参りました。

【註】「也是」也ハ私モハ意、即チモ矢張りノ意ナリ。

六九近頃御多忙ですか。大して忙しい程でもありません。

【註】「不算」ハ……ノ方デモナイノ意。

七〇お寄り下さい。その内伺ひます。

【註】「請安」ハ御機嫌ヲ伺フノ意。

七二もう一杯召し上れ。大分やりました、此上やつたら  
酔つて仕舞ひます。

【註】「再」ハ副詞ノコノ上ノ意ニシテ、  
「一杯」ハ「モ」ニ當ル。

七三まだ御休みになりませんか。まだ早いです。

【註】「歇着」ハ「休息」ノ意、又「休息」ト譯ス。

七四二階の窓をお開けなさい。窓は明いて居ります。

【註】「把」ハ「ヲ」ト譯シ、常ニ名辭ノ上ニ冠セラル、凡ソ「請」ノ内ニ「把」  
ヲ用コレバ其ノ動辭ハ必ズ名辭ノ下ニ置カレ、假令「開窓」

戸ハ「把窓戸開々」トナリ、「穿衣裳」ハ「把衣裳穿上」トナルノ類皆  
是レナリ。「開開」ノ如ク動辭ニ字ヲ連続シテ命令辭トナスコト

アリ「看看」(聽聽)ノ如シ。  
「着哪」ハ現在ヲ示ス助動辭ニシテ邦語ノ「テ居ル」(テ居ヤネ)

語氣ニ同シ。

●(七四)御出かけになりませんでしたか。●朝一寸出ました。

【註】「二趨」ハ人或ハ舟車移動ノ回数ニ使用ス。

(七五)あの人は何處へ行きましたか。見送りに行きまして。

(七六)車は来ましたか。やがて來ます。

【註】「就」ハ直チニノ意。

(七七)今し方地震が有りまして。さうですか、氣が付き

ませんでした。

(七八)あれは何うしたのですか。火事かも知れません。

【註】「許」ハ或ハ……カモ知レヌノ意。

(七九)お變りありませんか。達者で居ります。

【註】「啊」ハ輕キ疑問詞。「聊」ハ殆ンド語助ニシテ深キ意味ヲ有セズ。

(八〇)御宅では皆様御機嫌宜しう御座いますか。御蔭で皆

無事です。

(八一)御両親は皆御達者ですか。ハイ皆非常に壯健です。

【註】「都」ハ皆又ハスベテノ意。

(八二)御無沙汰致しました。私こそ。

【註】「彼此」ハ御互ノ意。

(八三)豫て御尊名は承つて居りました。どう致しまして。

(八四)御配慮有り難う。どう致しまして。

【註】「叫」ハ……ヲシテ……セシムノ意。

(八五)御苦勞掛けました。どう致しまして。

(八六)御病氣は御全快ですか。有り難う、全快しました。

【註】「承問」ハ御尋ネヲ受ケテノ意。

(八七)御道中御大切に。有り難う。

【註】「罷」ハ推定ノ辭ニシテ、御蔭ニ依リ無事デアラントノ意。

(八八)どんな色に致しませうか。淺黄のが欲しいのです。

(八九)一疋はどの位有りますか。普通五丈三尺です。

【註】「多」ハ疑問詞。「多大」何ノ位大イ。「多遠」何ノ位ノ遠サノ如シ。

【註】「疋」ハ上平。

(九〇)一斤幾何ですか。三十錢です。

(九一)何か新柄が有りますか。如何です、これは何れも流行

の柄です。

(九二)腹はお空さになりませんか。イエ、今物を喰べたば

かりです。

【註】「點心」ハ間食物ニシテ、饅頭菓子ノ類。

(九三)お寒くはありませんか。イエ、毛の著物を着て居りま

す。

(九四)昨日は何時頃御歸宅でしたか。遅くはありませんで

した、まあ十時一寸でした。

【註】「的」ハ過去詞ナリ。「也就是」ハ先ツ……位ノ意ナリ。

(九五)此の公園にはお這入りになつた事がありますか。有

ります、大層宜しう御座います。

(九六)今日は船が出ますか。今日は出ません、明日出ます。

(九七)着物は洗ひに遣りましたか。遣りましたが、未だ出

來て來ません。

(九八)明日は日曜ですが何方へお遊びにお出かけですが。

友人を誘つて野球を見に行きます。

(九九)御覽なさい、あの船は軍艦では有りませんか。見たと

ころ、商船の様です。



【註】「瞻着」見夕處ノ意。「像」……ノ如シノ意。  
 (二〇〇)あの額には何と書いて有りますか。 天下泰平と書いて有ります。

### 問答之中

(一)勘定しましたか。 當つて見ました。  
 どれ程有ります。 キツチリ五十です。  
 【註】「數」數ハ數ヘル(動詞)ノ時ニハ上聲、數名詞ノ時ニハ去聲ニ發音ス。  
 (二)天氣になりましたか。 なりました。  
 風が有りますか。 有りません。  
 (三)雨は止みましたか。 止みました。  
 道は良いですか。 良い方です。  
 【註】「好走」ハ歩キ良イノ意。  
 (四)風はどつちです。 西北です。

浪は高いですか。 大した事はありません。  
 【註】「颯」ハ吹ク、倒ハ寧ロ又ハマ、アト云フ意。  
 (五)時計をお持ちですか。 持つて居ります。  
 今何時ですか。 九時半です。  
 (六)何をお書きですか。 手紙を書いて居ります。  
 何方にお出ですか。 宅へ出します。  
 (七)あの人はまだ着きませんか。 もう着きました。  
 いつ着きましたか。 昨晚。  
 (八)お前は何處の者か。 米屋です。  
 何しに來たか。 米を持つて來ました。  
 (九)最初の驛は何處ですか。 前門です。  
 終點は。 奉天です。

【註】「頭」ハ第一ノ意。「站」ハ火車站ノ略語ナリ。  
 (一〇)何等に乘りますか。 二等に乘ります。  
 寢臺は如何ですか。 要りません。  
 【註】「票」ハ切符ノ意。「可」ハ此場合語調ヲ整ヘル爲メニ用ヒタルモノニテ不ヲ強調ス。  
 (一一)長江通ひの汽船にお乗りでしたか。 何回も乗りました。  
 何處何處へお乗りでしたか。 漢口宜昌邊まで行きました。  
 【註】「甚麼的」ハ……等ノ意。  
 (一二)琉璃廠まで遣つて呉れ。 二十錢下さい。  
 十五文遣らう。 お乗りなさい。  
 【註】「毛」ハ銀貨ヲ云ヒ、「子兒」ハ銅錢ヲ云フ、兩者ノ換算率ハ時ニ依リテ

一樣ナラズ。「給」此場合與「ヨトイフ」意。

(二)黄鶴樓は御覽でしたか。行きました。

景色は好いでせうね。誠に壯觀です。

(三)二階では誰が話して居ますか。王の息子さんです。

何の用ですか。本を借りに來たのです。

【註】語法ニ於テ「來」及「去」ハ時ニヨリ同字ヲ前後ニ疊用スルコトアリ。

(四)御宅の雇人は如何しました。一寸歸りました。

何日頃戻りますか。明後日朝の約束です。

【註】此場合「呢」ハ間投辭ナリ。「告假」ハ自己ヨリ休暇缺席スルノ意。「假」ハ去聲ナリ「得」ハ元來「ネバナラヌ」ノ意ナレド此場合ハ「答」ト譯ス。

(五)今民國何年ですか。民國二十二年です。

(一)あの人は日に何度食事しますか。朝晩二回です。

米飯ばかりですか。米飯モ餛飩モ兩方やります。

【註】「頓」ハ回数ヲ示シ食事ノ度数ノミニ用ユ。「竟」ハ只……ハカリノ意。

(二)石炭を注文しなければなるまい。石炭はまだ有り

ますが、炭を取らなければなりません。

何斤云へば良いか。五十斤取つて下さい。

【註】「得」ハ是非……セネバナラヌノ意。「叫」ハ酒食薪炭類ヲ商人ニ云ヒ付ケルノ意。

(三)今日は本當に熱いですね。私は昨日より少し勝し

だと思ひます。

【註】「比」ハ……ヨリノ意ニシテ比較スルニ用フ、這個比那個好ノ如シ、

どうして。今日は少し風が有りますから。

(四)今年の講習會は何日から始まりますか。今月十五

日に始まります。

何日迄ですか。八月三十一日迄です。

(五)先生今日は學校が有りますか。有ります。

一時です、お出かけにならないければなりません。車が

來たら出かけます。

【註】「該」ハ……スベキ答ノ意。

(六)一寸量つて下さい、此の手紙を東京へ出すには、幾許か、

りますか。書留ですか。それでは三錢で宜しい。

(七)あの人は毎日來ますか。隔日に來ます。

いつも何時頃ですか。朝來なければ晩に來ます。

【註】此場合ノ「不是」就是「……」テナケレバ即チ……テスノ意。

(三六)あの學校へは一週に何回お出かけですか。 二回だけです。

何日と何日ですか。 火曜と木曜です。

【註】「和」……ト……ノ意、接続辭ニシテ名辭ト名辭ヲ接続ス、備和我ノ如シ。「和」去聲ナリ。

(三七)あなた方は御一緒に御住居ですか。 ハイ一緒に居ります。

賄は如何なさいますか。 二人で出し合ひます。

【註】「二處」處字ハ去聲。火食ハ食料ナリ。「擡」ハ割リ振ルノ意。

(三八)今日は月末ではありませんか。 左様です。

勘定は皆済ませましたか。 大概皆支拂ひました。

【註】「差不多」ハ略ボノ意。「還」ハホワント發音ス。「還賬」ハ掛借リヲ支拂フノ意。

(三九)散歩に行きませう。 好いですナ、何處にませう。

動物園へ参りませう。 それはチト遠過ぎます、北海にませう。

(四〇)仕度は出来ましたか。 出来ました。

傘を持ちませんか。 此の様な天氣に傘を持つてどうします。

【註】「好」完了ノ意。

(四一)お出かけになりませんでしたか。 朝一寸出ました。

何處へお出ででしたか。 花見市へ行きました。

(四二)お父さんは何處へ行きましたか。 御役所へ行きました。

た。

お母さんは。 家でお仕事をして居ります。

【註】「活」ハ手仕事ノ意。

(四三)誰さんから電話がかかりました。 何の用か。

一寸家へお出で下さいといふことです。 宜し、直ぐ伺ふというて呉れ。

【註】「回」ハ「回答」ノ意ニシテ返事ノコトナリ。

(四四)誰さんからも遣ひ物が参りました。 何か。

蓮根と西瓜です。 宜しく云うてお呉れ。

名刺を上げなくても宜しいのですか。 上げるがいい。

(四五)この新聞は主筆は誰ですか。 上官といふ方です。

社説はどうです。 先づ穩健でせう。

【註】「算」ハ「先ツ」……ノ方ノ意。

(四六)今日は舊の幾日ですか。 十四日だと思ひますが、はつきりしません、カレンダーを見れば分ります。

【註】「許」ハ「……カモ知レヌ」ノ意。

(四七)一等寢臺券を下さい。 一人四圓です。

子供はどうします。 十歳未満ならば半額です。

【註】「大洋」ハ大洋錢ノ意ニシテ本位貨幣銀貨一圓ヲ指ス。「位」ハ人員ヲ數フル時ノ敬稱ナリ。

(四八)荷物は何處へ預けますか。 帳場へ御預けなさい。

預けて、大丈夫ですか。 御安心なさい、決して間違

ひはありません。

【註】「交」ハ「渡」スノ意。「櫃上」ハ帳場ノ意。「萬無一失」ハ萬一モ間違

ナシト云フ文語ノ熟辭ナリ。

(四二)こゝは一泊幾許ですか。一間です。

飯代も這入つて居ますか。 間代も食事も籠めてあります。

【註】「店」ハ客店(旅館)ノ意。「連房帯飯」ハ間代カラ食事マデノ意ニシテ 包括ノ場合ニ用フ。「一包」ハ全部籠メルノ意。

(四三)御酒は何に致しませう。 焼酒を二本持つて来て呉れ。

お燗致しますか。 一寸燗して呉れ、餘り熱くしないように。

【註】「壺」ハ德利或ハ急須ヲ指ス。

(四四)お誂へは。 肉團子と鳥の酢の物を持つて来て呉れ。 其の外には。 マア喰べてみてからにしよう。

【註】「想菜」ハ料理ヲ考ヘルコトニテ料理店ニ於ケル慣用語ナリ。

(四五)餅を召し上りますか、餛飩になさいますか。 雑樣兒包子にしよう。

何の位拵へませうか。 マア十個程持つて来て呉れ。

【註】餅ハ餛飩粉ヲ捏ネテ油ヲヒイタ鍋ニテ焼キタルモノ。「雜樣兒包子」ハ雜セタル餛飩ヲ云フ。一句中ニ二個ノ「是」ヲ分ケ冠スレバ問辭トナル。

(四六)汁はいりませんか。 いる。

何に致しませう。 玉子汁を一杯呉れ。

【註】「湯」ハ汁ニシテ湯ニ非ズ。

(四七)貴下は北京に御出になつたことがあるさうですね。

それはずつと前の事です、ざつと十年になります。 今は變つたでせうね。 大分變りまして、丸で昔の様子

はないさうです。

【註】「聽說」ハ「聞ク處ニ依レバ何々ナル由」ノ意ナリ。「所」ハ全然ノ意。

(四八)あの人は秘書長ですか。書記官ですか。 どういふ出身ですか。 留學生出身です。

(四九)公使は着きましたか。 明日着くさうです。 何處まで迎へに出ますか。 そんなに遠くは行かれません、停車場位の處です。

【註】「說是」ハ「言フ處ニ據レバ」トノ意ニテ「聽說」ニ比シ語勢輕キモノ也。也就是ハ問答ノ上94參照。

(五〇)契約に年限を入れましたか。 入れました。 結局何年ですか。 先づ二年と定め、後で又繼續します。

【註】「合同上」ハ「在合同上」ト云フベキ處ヲ在フ省略セルモノニテ契約書面ノ意。「往後」ハ後日ノ意。「再」ハ更ニノ意。

(五一)これは彼の人の自筆ですか。 恐らく代筆でせう。 どうして分りますか。 手が違ひます。

【註】「見得」ハ知り得ルノ意。

(五二)御從兄さんは何方においでですか。 目下廣東です。 何をしておいでですか。 人の商賣を手傳つて居ます。

【註】「帮著」ハ助ケテノ意。「生意」ハ商賣ナリ。

(五三)貴下の一つ拜借したい物があります。 何ですか、御遠慮なく仰言ひ。 長靴を拜借したいのですが。 お安いことです、一寸お待ちなさい、取つて來ますから。

【註】「和悠借」ハ貴下ニ向ツテ借リルノ意。「一樣兒東西」ハ或種ノ物ノ意。「只管」ハ構ハズハ意。「現成的」ハ直チニ成リ立ツノ意。

(五三) どうぞお菓子を召し上れ。

食事を済ましたばかり

です。

御遠慮には及びません。

此方こちらに上あつて遠慮など

致しません。

【註】「客氣」ハ、ヨソヨソシノ意。「粧假」ハ何々ノ振リヲスル、何々ヲ装フノ意。

(五四) この茶は召し上つて見て如何ですか。

何茶ですか、大

層好い味ですが。

龍井茶です。道理で大層結構です。

【註】「喝着」ハ、飲ンテ見テ即チ飲ミ合フノ意。「龍井」ハ浙江省ニ於ケル茶ノ産地。「怪不得」ハ怪シムヲ得ズノ意ニテ邦語ノ道理ヲ云々ニ相當ス。

(五五) 新年も目出度う御座います。お目出度う御座います。

年始は皆お済みですか。もう直ただきですが、まだ少し残つて居ます。

【註】「同喜」ハ御同様ニ日出度シノ意。年始ニ行クヲ「拜年去ト云フ。

(五六) 貴下は何日御出發の御豫定ですか。今月末か来月の初めでせう。

お荷物はすつかり御用意が出来ましたか。

荷物の用意は出来ました、只旅券を待つて居るばかりです。

【註】「倒」ハ荷物ノ方ハ用意が出来タトノ意味ヲ含ム語ナリ。「就」ハ只何々ハミノ意。

(五七) 貴下は外へお出懸けになるのに銀貨をお持ちですか。

銀貨は持ちませんが、紙幣を持つて行きます。

是非銀貨を少しお持ちの方が途中御便利です。

【註】「總得」ハドウシテモ……セネバナラヌノ意。

(五八) 銀貨にしますか、札にしますか。どちらでも宜いが、

少し銅貨を交せて貰ひたい。

【註】「搭」ハ加ヘル、添ヘルノ意。

(五九) 遅いではありませんか、終列車はもう出ました。

何故です、時間表は改正したのですか。

變りました、まだ御存知なかつたのですか。

【註】「可不是」ハ可不是麼ノ略語ニテ、然ラサルベケンヤ、然リノ意ニテ然リニ比シテ語勢強シ。

【註】「可不是」ハ可不是麼ノ略語ニテ、然ラサルベケンヤ、然リノ意ニテ然リニ比シテ語勢強シ。

(六〇) この邊に宿屋が有りませんか。澤山有ります。

何處が好いです。どれも大した違ひはありません。

【註】「多着的呢」ハ着ハ多數有ル有様ヲ表示セルモノ、的及ビ呢ハ斷言ノ口調ナリ。「差不許多」ハ許多ナル差違無シ、即チ大ナル差違無キノ意。「客棧」ハ商人宿屋ノ意。

(六一) この驛は何處ですか。豊臺です。

次が前門ですか。イエ、もう一つ有ります。

(六二) 君勘定書を持つて来て呉れ。持つて参りました。

これは違つて居る様だ。何故ですか。

勘定が少し多過ぎる様だ。イエ、これは極りの値段

です。

【註】「夥計」ハ店員又ハ手代ヲ云フ。「開」ハ書出ス意。

(六三) この南京緞子は幅はどの位ですか。二尺餘りです。

丈は。普通の絹と似たものです。

【註】「多寛」ノ多ハ疑問詞、問答上ノ89參照。「二尺多」ハ二尺餘。「長裏下」ハ長サノ意。

△四靴下が有りますか。 有ります、これは如何です。

是は餘り薄い、も少し厚いのが欲しい。 それでは是になさいませ。

【註】「一雙」ハ足袋靴ノ一足ノ意。「留」ハ買フ意。

△五これは高過ぎる、少し負けて置きなさい。

私共では掛値は致しません。

【註】「言無二價」ハ言ニ二價無シ、即チ二様ノ値段ヲ云ハストノ意。

△六仕事はお忙しいですか。 近頃は大分忙しく、夜業ばかりして居ます。

大分儲かるでせう。 お蔭様で。

來ないのですもの。

【註】此場合ノ「廢」ハ疑問詞ニ非ラズ。「照舊」ハ元ノ通りノ意。

△七大觀樓は映畫が變りましたか。 二三日前に變つたばかりです。

新しいのは何か特色が有りますか。 何れも國産の長卷物です。

△八此の寺の本尊は何様ですか。 觀音様です。では御利益が有りませう。 勿論です、何でも叶へて下さいませ。

【註】「供」ハ祭ルノ意ニテ去聲ニ發音ス。「總」ハ此場合是非共又ハ少クモノ意ナリ。「靈」ハ普通伶俐ノ意味ニ用ユルモ、此場合ハ御利益ノ意ナリ。

【註】「竟」ハ只何々バカリノ意。「打」ハ動辭作スノ意。「夜作」ハ夜業ナリ。應該ハ問答中25ノ「該」ノ意ニ同シ。「借慾吉言」ハ貴下ノ日出度言業ニアヤカカノ意。

△七私の羽織は何日出來ますか。 明後日出來ませう。

どうして又明後日か。 今度は決して間違ひ有りません。

△八此のハンカチーフは幾何ですか。 一打一圓五十錢です。

高い、一圓にしなさい。 一圓では本にもなりません。

【註】「不穀本兒」ハ元價ニモ違セヌノ意。

△九相場は下りましたか。 矢張り同じ事です。

如何していつまでも下らないのでせう。 品物が一向

△三貴下は何方から御入來でしたか。 會社からです。

如何して今時分退けたのですか。 今日は月末で用が少し多かつたのです。

【註】「這早晚兒」ハ今時分ト譯シ時ノ遅キヲ云フ。

△四當地の輸出品の主なる物は何ですか。 茶です。其の次は。 棉花です。

【註】「出口貨」ハ輸出品ナリ。

△五貴下は魚がお好きですか、肉がお好きですか。 矢張り魚です。

肉は。 肉は物に依ります、牛や豚はマアやれますが、羊は餘りいけません。

羊は美味のに、如何してマアお嫌ひなのですか。

どうもあの臭味が有りますので。

【註】「看甚麼」ハ物ニ依ルト譯シ何タルカヲ見ルノ謂ナリ。「覺着」ハ覺  
エル、感ズルノ意、體味兒ハ生臭キ香ヒニテ、類ハ羊臭ヲ云フナリ。

(七五)此の廣告は貴下が譯したのですか。 私が譯したの  
です。

道理で良く出来て居ます。 どう致しまして、申譯に  
やつただけです。

【註】「怪不得」ハ道理デ、又ハ成程ト譯ス。「罷咧」ハ而已ノ意。

(七六)此方へはどういふ御用向で御入來になりましたか。

商業視察に参りました。

今後此方で御商賣でもなさるお積りですか。 左様、

その考で居ります、どうか將來宜しくお願ひ致します。

及ばずながら。

【註】「照應」ハ世話愛顧、引立ト譯ス、何ホ應ノ字ハ去聲ニ發音ス。「理當」  
ハ理ノ當然トノ意。

(七七)今日出た人は多う御座いましたか。 可なり來まし

た、ざつと三十人許りでした。

如何して其様に來たのでせうか。 日曜の上に、天氣

が好かつたからです。

【註】「那麼些人」ハ其様ニ澤山ノ人ト譯ス、些カト誤ル勿レ。「赶上」ハ際  
會、出會ウノ意。

(七八)此の切はほんたうに良く織れて居ます。 良いこと

は良いが、併し餘り丈夫ではありません。

如何して丈夫でないでせう。 凡て機械織はどうも

保が悪い様です。

【註】「會」ハ道理上有リ得ベカラザル事ノ出來セシ時ニ用フル間投詞  
ナリ。

(七九)部屋が餘り氣が籠つて居る、早く窓を開けなさい。

お風を召すかと思ひまして。

馬鹿を言ひなさい、部屋に此様に瓦斯が籠つて居るのに

氣が付かないか。

【註】「悶」ハ鬱陶敷イノ意、又ハ退屈トモ譯ス。

(八〇)近頃如何して自轉車にお乗りになりましたか。

私は飽きました。

如何して覺えたばかりで飽きたのですか、本當に三日坊

主ですね。

【註】「續會了兩天」ハ「ハット」愛ニテ「三」日ニシカナラヌノ意。「新鮮」ハ  
珍ラシイノ意。

(八一)誰さんから手紙が來ましたか。 來ました、君にも宜

敷く云うてありました。

有り難う、又來る様なことを云うて居りませんでしたか。

來たいがハッキリ分らないとのことでした。

【註】「來着」ハ過去ヲ示ス語ニシテ、斯クシテアツタトノ意。「提」ハ云ヒ  
出スノ意。

(八二)今日は何時頃お歸りですか。 どうしても八時過ぎだ。

夕飯は如何致しますか。 宜しい、外で喰べるから。

(八三)此の御飯は如何で御座いますか。 好いけれども、一  
寸硬い。

それでは、明日は少し長くむらしませう。それが宜い、併し軟か過ぎない様に。

【註】「爛」ハ煮ニ切ルコトニテ俗ニ云フガチヤノ意ニ當ル。「吃」着ハ食ベテ見テノ意。「合式」ハ適當ノ意。

（六四）私のあの石鹸入れは何處に置いてあるか。

洗面器の傍に置いてありますが、分りませんでしたか。あれは己れのではない、他人のだ。では探して参りませう。

早くして呉れ、直ぐ顔を洗ふのだから。

【註】「等」ハ急ギノ場合ニ使用ス。「菓子」ハ臺ノ意。

（六五）此の部屋は大變散らかつて居る、早く片付けて呉れ。

今片付けたばかりですのに、どうして又散らかつたので

せう。

餘計なことを云はないで、もう一度片付ければよい。

【註】「亂七八遭」ハ亂雜ノ形容。「不用費話」ハ無駄口ヲ云フニ及バヌノ意。

（六六）吳さんに上げる手紙は、お前届けて呉れたか。疾つ

くに届けました。これが御返事です。

何故一言云はないのが、聞かれてから云ふなんて。

【註】「問備續説」ハオ前ニ尋ネテカラ始メテ言フノ意。

（六七）如何でせう、此の天氣は。大丈夫降るやうなことは

ありません。

降つたら如何します。降つたら、何かおごるとしま

せう。

【註】「輸」ハ負ケルコト。「東兒」ハ東道即チ主人役ノ意。「不至」ハ……スル程ニ至ラヌノ意。

（六八）先刻あれが私に言つたことは何と無禮でせう。あれ

は子供だ、何が分かるものか、氣に掛けるには及ばない。

【註】「多」ハ多麼ト同ジク、何ント……デハナイカノ意。「懂」ハ甚麼ハ

何ヲ解スルカ何モ解セヌノ意。

（六九）これは玫瑰餅ですか。餅には違ひないが、玫瑰では

ありません。

それでは一體何ですか。あの始終言ふ月餅ですよ。

【註】「玫瑰餅」此餅ハ菓子ニシテ玫瑰ノ花瓣ヲ砂糖漬ニシテ作ラシメテシタル最中ノ如キモノニシテ、四月頃ヨリ食ス。「月餅」ハ仲秋ニ

用ユル菓子ナリ。「餅倒對了」ハ餅ハ却テ間違ヒナシ、「倒」ハ却テ餅シノ意。「却」モ倒ト同義。「常說的」……麼ノ麼ハ疑問詞ニ非

ラズ、意味ヲ強メル作用ヲナシ、「……デスヨ」又ハ……デハアリマセンカニ類ス。

（七〇）貴下は碁が大層お強いさうですな。一向駄目です。

隠してはいけません。隠すものですか、ほんの笨碁

で、打てるなんて言へません。

【註】「並」ハ否定ニ用ニ。「米碁」ハ笨碁ノ意。「那兒」ハ如何シテノ意。「論到會下」ハ碁ヲ解スト言ヒ到ルノ意。

（七一）あの馬は如何して脊中が腫れてるのでせう。馬鹿げ

た事を云ふな、あれは馬じやない、駱駝だよ。

あれが駱駝でしたか、始めて見ました。

【註】「少見多怪」ハ見聞狭キ爲メ不思議ニ思フコト。「敢情」ハ豈圖ラン

トノ意。

（七二）今の電報は何處から來たのですか。天津からです。



何か大事なことですか。なに爲替の事です。

〔九三〕今年の極東競技大會は何處で開かれますか。東京でやるさうです。

各國の選手は皆來ることとせうね。それは無論でせう。

〔九四〕あれは何の音ですか。隣で爆竹を揚げて居るのです。何が有るのでせう。大方お祭りとせう。

〔註〕「光景」ハ有様ノ意ナレドモ、大方ノ意トナス。

〔九五〕あの人の家には、どんな人達が居ますか。母子二人です。

あの人は未だ獨身ですか。もう決りました、臆て結婚します。

〔註〕「娘兒倆」ハ母子二人ヲ云フ、父子二人ヲ「爺兒倆」ト云ヒ、兄弟二人ヲ「哥兒倆」ト云ヒ、姉妹二人ヲ「姐兒倆」ト云フ。成家ハ結婚スルノ意ナリ。

〔九六〕上海で幾らか御滞在でしたか。イエ、着いた翌日直ぐ船が出ました。

それでは芝居にお出でになりませんでしたか。

芝居どころではありません、友達にさへ會ふ時間もありませんでした。

〔註〕「連」ハ何々スラモノ意。

〔九七〕これは生水ですから飲んではいけません。大丈夫いとも飲んで居ます。

言ふ事を聞かないと、腹を壊して後悔しますよ。

〔註〕「腹」ハ何々スルニ及ンデノ意。

〔九八〕明日どうぞお出で下さい、何か用意致して置きますから。有難う御座います、是非お伺ひいたします。

ほんの有合せて何も御座いません。その方が尙ほ結構です。

〔註〕「必要奉擾」ハ必ズ御馳走ニ預ラント欲ストノ意、「家常飯」ハ有リ合セ料理ノ意。

〔九九〕何故今時分まだ起きないのですか。今日は少し気分が勝れません。

如何しましたか。昨晚假寝して風を引きました。それ御覽なさい、平常餘り不攝生だからです。

〔註〕「不舒服」ハ不快ノ意。「浮輪」ハ假睡ノ意。「來着」ハシテ居ツタノ意。「可説的是呢」ハ「可」ハ單ニ語氣ヲ強ムル語、説的是ハ何ヤト言フタトノ意ニテ、本句ハ「一熟語ニテ、如何ニモ其通り言ハヌコト」

テハナイ等ノ意ニ用フ。

〔一〇〇〕直に暑中休暇ですね。直ぐです、後一週間です。

今丁度試験の最中でせう。左様です、それで久しくお伺ひ出来ませんでした。

今度の試験は貴下は屹度優等でせう。とんでもない、及第が出来れば結構です。

御謙遜です、君の學力はよく分つてますよ。御冗談でせう。

〔一〇一〕交民巷へは如何参りますか。哈達門を這入つて、真

直ぐに西へ行けば交民巷です。日本公使館も其の邊ですか。左様、水門を北へ行き、

英國公使館の向側がさうです。

(二〇三)沈先生は御在宅ですか。 生憎です、今出かけたばかりです。

何時頃お歸りですか。 定りません、何れにしても早いことはありません。

では一筆書いて置きませう。 結構です。

【註】「沈」シ、エント發音ス。「巧」都合好シ又折好シノ意ナレドモ、此處ニテハ折悪シクノ意ニ解ス。「反正」ハ何レニセヨ又ハ要スルニノ意。「字兒」ハ簡單ナル書面ノ意。

(二〇三)今這入つて來た人は誰ですか。 お二人でしたが、どちらですか。

私が尋ねるのは洋服を着た方です。 あれは私共の買辦です。

【註】「買辦」ハ支那ニ於ケル外國商館又ハ銀行等ノ代辦人ナリ。「廢」ハ疑問詞ニ非ラズシテ、日本語ノ「デス」ヨリ「ヨ」ニ當ル。

(二〇四)貴下の支那語はどんな風にして御研究でしたか。

なに、ほんの聞き覚えです。 聞き覚えで、此様に御上手とは誠に天才ですね。 どう致しまして。

【註】「散學」散ハ上聲、不規則ニ學ブ意。「天分」高分ハ去聲、天稟、天性ガ優秀ノ意。

(二〇五)貴下は馬に乗れますか。 吾々北方の者は、皆馬に乗れます。 南方人は。

南方の者は船が上手です、それで南船北馬と申します。 【註】「牲口」ハ家畜ノ意ニシテ、此場合ハ馬ヲ指ス。

(二〇六)五族とは如何云ふことですか。 漢滿蒙回藏を五族と云ひます。

回とは回同のことですか。 左様です、甘肅一帶には回同が澤山居ります、それ、あの馬と云ふ姓の者は大抵それです。

(二〇七)時にも尋ねしますが、アラシヤンと云ふのは何處にありますか。 外蒙古に有りまして、即ち昔の賀蘭山です。 成程其の訛りでしたか。

(二〇八)彼は今日出發しましたが、見送りにお出になりましたか。 立ちましたか、私は一向知りませんでした。 何故御知らせしなかつたのでせう。 恐らく忙しかつたので、態と知らせなかつたのでせう。

【註】「知會」ハ通知スルコト。「也許」ハ何カモ知レヌノ意。

(二〇九)此の株券は年に幾らの配當ですか。 大して多くありません、ほんの五六分です。 幾時貰へるのですか。 春秋二度です。

【註】「到手」ハ手ニ入ルノ意。

(二一〇)貴下は何故其様に諦めが悪いのですか、芥子粒位の事で直ぐ喧嘩するなんて。 何も諦めが悪いと云ふ譯ではありません、彼奴の仕打が餘り悪いから。 貴下は矢張少し大目に見て遣つた方が、友達の友誼と思ひます。 ハイ、それでは御言葉に従ひませう。

【註】「想不開」ハ思ヒ切レヌ、諦メラレヌ、心ガ解ケヌ等ト譯ス。「芝蔴」ハ「ゴマ」即チゴマ粒程ノ小イ事デノ意。「縁」ハ初メテノ意。「合乎」ハ

二叶フノ意。「對待朋友」ハ友人ニ對スル意。

(二二)貴下は毎日此處をお通りですか。

一日に屹度一度は往復致しますか。

大分ありますね。慣れれば遠いとも思ひません。

【註】「總」ハ少クモノ意。「打來回兒」ハ往復スルノ意。

(二三)これは何の花ですか。日廻草です(葵花)。

あれは。晚香玉です。

あのからんで居るのは何と申しますか。それが俗

に云ふ喇叭花(朝顔)です。

ホ、御庭には何の花でもありません。皆ぼんの

草花で、何も値打のあるものはありません。

【註】「晚香玉」ハ水仙ノ如キ花ニシテ黄昏ニ至リ香氣ヲ放ツ、故ニ此名

アリ。「架」ハ支柱。「腰」ハハウ或ハカラムノ意。「囀」ハ發語ノ辭ニシテ驚嘆ノ意。「齊金」ハ完全又ハ揃フノ意ナリ。

(二四)君城外へ釣りに行かうぢやないか。今はどんな魚

が居りますか。大概の魚は皆居る、鯉や鮒や鰻魚等も。

鰻魚は釣れますか。夫れは間が好くなければ駄

目だ。

【註】「華鯽魚」ハ河魚ニシテ淡黄色、巨口細鱗、其味ヒ最モ美ナリ。「甚麽

的」ハ語尾ニ用ユレバ何等ト云フ意トナル。「可」ハ詰調ヲ強ムルモノニ過ギズ。「碰巧了」ハ折リ善ク遭遇スルコト、碰ハ當ルノ意ナリ。

(二五)君は何の歳かえ。

僕より二つ上だ。何だ牛かえ、道理で仕事が鈍い。

冗談云ふない。

【註】「屬」ハ當ルノ意。「敢自」ハサテハ、又ハ豈ニ計ランヤ、或ハ元來等ノ意。

(二六)此の料理は召し上られますか。何故ですか。

御口に合ひますまいと思ひまして。どう致しまして、大層美味く頂いて居ります。

【註】「吃得來」ハ食ベラレル、即チ口ニ合フ意。「合式」ハ適スルノ意。

(二七)私は未だ幾らか君に借りが有りやしませんか。

何の借りですか。

此の前本を買つた時に、君が立替へて呉れたではないか

私は今日御返しに上りました。こればかりの事で

何で御心配が要るものですか。

【註】「該」ハ借錢スルノ意。「短」ハ借ル、或ハ不足ノ意ノ動辭ナリ、短シト

ノ形容詞ト異ル。「備錢」ハ若干錢ノ意ニシテ二錢ト誤ル勿レ。「盤」ハ本義ハ埋メル、又ハタス等ノ意ナルモ、此場合ハ立替ヘルト譯ス。

(二八)彼は何か仕事が出来ましたか。出来ました。

どんな仕事ですか。税關で書記をして居ります。

毎月どの位の給料ですか。四十圓で、外に十圓の手

當があります。

【註】「有了事了」ハ職業ニ就キシヲ云フ、用事アリト誤譯スル勿レ。「辦筆墨」ハ文筆ヲ扱フコト。「津貼」ハ手當ノ意。

(二九)御出立の日取りが定まりましたか。

明後日の早朝に定めました。生憎用事がありました、明後日は御見送り致し兼ねるか

も知れませんが。 どう致しまして、御互の間柄の事ですから、夫れには及びません。

【註】「有日子云々」ハ日ガ決定スルノ意。「榮行」ハ敬語ニテ御出發ノ意。「偏巧」ハ生憎ノ意ナリ。「趕不上」ハ間ニ合ハヌコト。「不在乎這個」ハ此様ナ點ニ重キヲ置カヌノ意。

(二九) 貴下何か御出しにならないければ、鍵を掛けますよ。

掛けてもよい、鍵は此方へ呉れ。

割札は張りますか。 夫れには及ばない。

これだけの鞆は、貴下御自分でお持ちになりますか、夫れとも、驛にお預けになりますか。 これは皆手廻り品だから、自身で持たなければならん。

【註】「鞆子」ハ細長ク裁リタル紙片ナリ、姓名又ハ番號等ヲ記入シテ箱ニ張ル。

(二〇) 此の驛にはどの位停りますか。 幾らも停りません。

小用を達したいが、如何でせう。 其の様に暇はありませんか、次まで御待ちなさい。

【註】「解手」ハ小便ヲスルノ意。「下站」ハ次ノ停車場ナリ。「解上平」

(二二) 今度の車には我々乗つても好いのですか。 駄目です、これは貨車で、御客は乗せません。

それでは何時迄待つのですか。 心配せずとも、直ぐ又出ますから。

【註】「搭」ハ載セルノ意。「下越車」ハ次ノ列車。

(二三) 今日五里歩いたでせうか。 そんなになるものですか、まあ三里位のもので。 此の様に歩いて僅か三里ですか。 君は知らないのだ、

田舎の里数は町と違ふ。

【註】「跟」ハ和ト同ジクトノ意。「里頭兒」ハ里數ナリ。

(二四) 此處は如何して此の様に蚊が多いのでせう。 此處は水に近いからだ。 何故越さないのですか。 此處の家賃が安いから、越されぬよ。

君は全く命より錢が惜しいのだね。

馬鹿な事言ふな。

【註】「挨着」ハ接スル即チ接近スルノ意。「捨不得」ハ忍ビズト譯ス。「豈有此理」ハ其様ナ事ガ有ルモノカノ意ニシテ忿慨ノ口吻ナリ。

(二五) 誰方をお尋ねですか。 王といふ人を捜して居ります。

王さんは越しました。 何處へ越してしたか。 東四牌樓の六條小路へ越しました。 直き分るでせうか。 這入つて北側の三軒目がさうです。 有り難う御座います。 どう致しまして。

【註】「牌樓」ハ鳥居。「衛衙」ハ滿洲語ニシテ横町ノ意、南方ニテハ巷ト云フ。「口兒」ハ横町ノ入口ナリ。

(二六) 貴方はまだお寝みにならないのですか。 部屋が熱くて睡付かれませんか。 出て涼んでは如何です。 外は風が有りますか。 好い風です、月も大層宜敷う御座います。 それなら

直ぐ行きませう、部屋に引込んでばかり居るにも及ぶま  
す。

【註】「睡不着覺」ハ睡覺ナル動辭ニ「不着」ヲ挟ミ眠リ着ケヌノ意トナル。

「涼快」ハ涼シト云フ名辭ナルモ涼快涼快ヲ連續セバ涼メト云  
フ動辭トナル。「好大月亮」ハ非常ニ好キ月ノ意。「悶」ハ怠屈ノ意。

【二二六】御國の輸出額は一年にどの位になりますか。 一年

少くも二億です。

輸入品に匹敵しますか。 數年前迄は毎年二千萬圓

位不足しましたが、近來略ぼ同額になりました。

して見ると、御國の商業が日増しに發達して居るといふ  
事が能く分ります。

【註】「數」ハ足ル、達スト譯ス。「抵得住」ハ比敵シ得ルノ意。少個ノ個ハ

大略ノ意。不差上下ハ大差ナキノ意。

【二二七】平綏鐵道といふ名は如何して付けたのですか。

それは二個處の地名で、北平から綏遠城迄の鐵道だから  
其様いふのです。

此の線は利益が上りますか。 要するに地理上の關

係で、利益は二の次ぎです。

【註】「起」ハ起名ト云ツテ名ヲ付ケルコト。「究竟」ハツマハシ、畢竟又ハ要  
スルニノ意。

【二二八】君は如何して私の花を傷めたか。 私ではない。

君でなくて誰か。 まあ好いぢやないか、縁日の時に

同じ様なのを買って還すよ。

君が詫ればそれで良い、何も本當に返すには及ばない。

【註】「毀」ハコボツ又ムシルハ意。「着急」ハセキコムノ意。「認了」ハ自認  
スルノ意ナリ。

【二二九】君はあの人はどんな人と思ひますか。 甚だ丁寧な

方だと思ひます。

君に言つて置くが、其の丁寧な處が、彼れの可怕い處なの  
です。 さうですか、人は見掛けによらぬものですね。

【註】「利害」ハヒドイト譯ス。「俗語説知人知面不知心」ハ諺ニモ顔ヤ

形デハ心ハ分ラヌト云フ意ナリ。

【二三〇】あの髭のある人は何だか見たことがある様です。

あれは近處の者です、忘れたんですか。

サウサウ、さう云はれれば思ひ出しました。

【註】「面善」ハ見覺ヘガアルノ意。「提我的醒」ハ記憶ヲ呼ビ起スノ意。

怎麼會ハ問答中ノ78ニ同ジ。

【二三一】あの人の娘は誰に遣りましたか。 某山東人に遣つ

たのです。

それは顔と云ふ人ではありませんか。 左様、顔と云

ふ人です、君は如何して御存じですか。

誰かに聞いた様な氣がします。

【註】「給的是」ハ嫁ゲタノハノ意。「彷彿」ハ恰カモ……ノ如シノ意。

【二三二】御嬢様が御病氣の様に承りましたが、もうサツパリなさ

いましたか。 有り難う御座います、少し風邪氣味で

しましたが、もう全快致しました。

【註】「惦记」ハ心配スル、又ハ心ニ留メルノ意。

【二三三】貴下御子息はお幾人ですか。 三人居ります。

皆學校ですか。 二人行つて居ります、後のあとは未だ學齡に達しません。

【註】「跟前」ハ膝下ノ意。「世兄」ハ令息ノ意。

(二三四)御家族は此方こちらにおいでですか。 イエ、私は一人で來ました。

御家族をお呼びになつた方が御便利でせう。 私も其様したいのですが、何分遠方ではあり、家の方も手離せないのので、一緒に來られませんでした。

【註】「離不開」ハ離レラレヌノ意。「寶眷」ハ御家族ノ意、寶ノ字ハ尊稱ノ意ニ用フ。「寶眷」「寶號」等ノ如シ。

(二三五)私は今日御機嫌伺ひに參りました。 それは有り難う、御父様おとうさまはお變りはないかね。

御蔭様で、父は至極達者で居ります。 サア遠慮しないでお掛け。 ハイ、有り難う御座います。

【註】「老伯」ハ父ノ同盟ニ對スル敬稱。「小姪」ハ老伯ニ對スル自稱。「老人家」ハ御親父ノ意。「張羅」ハ世話スルノ意。

(二三六)貴下は今年も幾つですか。 私は三十二になりましたが、老先生は幾つですか。

私はもう六十一です。 大層御丈夫ですな。 駄目です、もう役に立ちません。

【註】「貴甲子」ハ壯年ニ「高壽」ハ老人ニ對シテ年齢ヲ問フニ用ユ。

(二三七)此の言葉は私は教へた事があるかえ。 まだ教おしはしません。

それでは今教へるが、これは極く大切な言葉だから、よく覚えて居なければいけない。 ハイ。 皆覺えたか。 まだです。

それでは、もう一度言はう、サー今度こそ覺えたらう。 ハイ、決して忘れません。

【註】「忘不了」ハ忘レルコトヘナイノ意、尙了ノ字ハリア、オト發音ス。(二三八)夜が明けたか。 明けましたが、雪が降つて居ります。

己おれれの靴を出して呉れ。 此の雪に學校へお出掛けですか。

槍が降つても己おれれは出掛けるよ、雪位何んだ。 では傘を持つてお出なさい。

要らない、外套が有りや澤山だ、男子が戦争の場合雪が降

るからとて傘等と云つて居られるか。

【註】「頂鐵鍋」ハ頂ハ律ハ、ハノ意、即チ鐵鍋ヲ冠フル、此句ハ支那ノ諺ナリ。

(二三九)貴下は毎日何時頃起きますか。 私は六時に起きます、貴下は。

私は夜が明けると直ぐ起きる。 貴下は本當に早起きですな、どうしても晝寢をなさるでせう。

イエ、私は晝間は一體寢ない方です、併し夜は早く休みます。

(二四〇)ア、ア、苦しくて遣り切れない、何とか途みちが無からうか。 君の資本は非常に多いではないか、それにまだ貧乏を恐おそがるのか。

これ迄貧乏して資本どころの話ぢやない。君の其の體格と君の其の才能では、確に無限の財産であることが保證される、それになんて資本が無い等と云ふのか。

【註】「了不得」ハ遣リ切レヌ、又堪ラヌノ意。「憑」ハ依ルノ意。「地步」ハ地位又ハ所ノ意。

二四二 貴下時計をお持ちですか。 持つて居ります。

一寸合せて下さい。 貴下の時計は大分遅れて居ます。

どの位遅れて居ますか。 二十分餘り遅れて居ます。如何して此の様に遅れて居るのでせう。 アー止つて居ます、巻くのを忘れたのでせう。其の様な事はありません、今朝巻いたのです。 それ

では、何處か故障が有るのでせう。 さうかも知れません。

【註】上弦ハネジヲ巻クゴト。「毛病」ハ人又ハ品物ノ癩缺點、疵、狂ヒ、不工合ノ所、等ノ意。「有了」ハ生ズルノ意。

二四三 久しく雨がありません、一濕り欲しいものです。

左様です、此の上降らなければ早でせう。 さうですと今年には是非豊年にしたいと思ひます。 さうですとも、戦時には豊作が一番必要です。

【註】「據我想」ハ私ノ考ヘテハノ意。「尤其」ハ就中又殊ニノ意。「年頭兒」ハ「年成」ニ同ジク、收穫ノ意。「軍務」ハ戦時ノ意。

二四四 姜太公とは何人ですか。 即ち周時代の呂尚と云ふ人です。

姓が呂で何故又姜と云ふのですか。 彼は齊の國に封ぜられたからです。

齊に封ぜられると、如何して又其の様な名稱が有るのでですか。 それは齊の舊姓が姜だから、それで此の、名前が有るのでです。

さうですか、やつと分りました。

【註】「姜太公」ハ太公望ノ事ナリ、支那ノ風俗ニテ人家ノ門ニ紙ヲ貼リ「姜太公在此云々」ヲ數文字ヲ書イテ、疫病除ケトス。

二四五 明日は日曜ですが、貴下は何をしてお越しになりますか。 若し天氣ならば、一寸西山へ行かうと思ひます。 貴下は病氣揚句ですから、成るべく外出をお控へになつた方が宜しい。 此の幾日と云ふものは、部屋でさへ

も出ないので、全く怠屈して仕舞ひました。

本でも読んで慰める事が出来ないのですか。 讀むにしても餘り動かないと、健康を害します。

それも左様ですね。

【註】「消遣」ハ遊ビノ意。「解悶兒」ハ鬱ヲ晴ラスノ意。「吃虧」ハ損スル、即チ損ネルノ意。

二四六 此の暑中休暇には旅行をなさいますか。 連れがなければ行く氣になれません。

貴下さへ宜しければお伴致します。 それは至極結構で、願つても出来ない事です。

【註】「懶意」ハ氣方進マヌノ意ニテ「不願意」ト同意ナリ。「求之不得」ハ元來文語ニシテ願ツテモ無キ事ノ意ナリ。

(二四六)今日は快晴で、實に爽快です。

さうです、すつかり

秋景色になりました。

これからは天氣が續くでせう。

それは勿論です、春

秋佳日多しですからね。

吾々は此の好い季候に、菊でも見に行かうではありませんか。

【註】「春秋多佳日」ハ陶淵明ノ句ナリ。「慶」ハ語勢ヲ強メタルモノニテ

「秋」ハ「ハ」ト云フ如キ意ナリ。「何妨」ハ好カラズヤノ意。「趁着」ハ「乗」ジテ又ハ利用シテノ意ナリ。

(二四七)あの方は今某大學に轉校し度いといふことですが、出來ませうか。轉校は別段差支へありませんが、其の人の學力如何に依るのです。

數學は彼の最も得意とする處で、他の課目も六十點以上です。それでは至急願書をお出しなさい、併し證明書を添へなければいけません。

【註】「看」ハ依ルノ意。

(二四八)あの人達は如何してあんなに騒いで居るのですか。

又麻雀を始めたのです。

君は何故忠告しないのですか。もう癖になつたので、忠告しても駄目です。

其の様な事があるものですか、善良な人が不良になつて仕舞ふではありませんか。

【註】「上癮」ハ中毒スルノ意。「勸不過來」ハ忠告シテモ良クナラヌ意。

「看」ハ見ス見スノ意味ナリ。

(二四九)私はお前に知ると云ふ理を教へて上げよう、知るを知ると云ひ、知らざるを知らずと云ふが、即ち知ると云ふ理である。

うまいですな、譯がピッタリ合つて居ます。

(二五〇)先生私は一日休ませて頂きます。何の爲に休むのか。

先程家から人が私を呼びに參りました。それでは行きなさい、併し明日は早目に歸つて來る様に。

【註】「打發」ハ遣ハス、即チ人ヲ遣ルノ意。

(二五一)貴下は此方の水に慣れましたか。此方の土地は、私共の處と大して違ひありません、慣れない事があるもの

ですか。

(二五二)明日御用がなければ一日集りませう。明日は少し

用事がありますから、後日にしませう。

まさか一日中暇の無い事はありますまい、若し午前お差支へあれば、晩に致しませう。それでは、明日午後に願ひませう、ですが決して御散財なさらない様に。

【註】「難道」ハド、ウシテ又ハマサカ或ハ何トマアノ意。「晩局」ハ晩ノ集

リヲ云フ。「一層」ハ一ツノ事ノ意。

(二五三)私は一寸御相談致し度い事が御座います、どうぞ明朝お宅で御待ち下さい。御入來になるならば、十時前に

御願ひ致します、若し時間が過ぎますと、お待ち出來ないかも知れません。



それでは、明日遅くも九時には必ず上ります。

【註】「候ハ待ツノ意。」

(二五四)御目出度う御座います、お嬢様が御結婚ださうで、特に御慶びに出ました。恐れ入ります、私は僅な事で皆様方を御騒がせ致さない積りでしたが、御遠方御入來下さいまして、誠に光榮に存じます。

痛み入ります、我れ我れの間柄で、其様に仰言られては恐縮です。

【註】「出門子」ハ嫁入りスルノ意。「賞臉」ハ顔ヲ立テル、又御來駕ヲ忝フ

スル等ノ意ニシテ謝辭ナリ。「太言重」ハ御言葉御丁寧ト云フ意。「提不到這個」ハ左様ナ事ニ云ヒ至レヌノ意ナリ。

(二五五)今日は伯父様の御誕生日ですので、私は御慶びに上りま

した。有り難う、挨拶だけで宜いのに(挨拶の時叩頭の禮を行ひたるに對し此語有り)

當然の事です、尙これは粗品で御座いますが、御納め下さ

い。

(二五六)どうぞ上座へ御掛け下さい。私は何も他人ではあ

りませんのに、御客扱ひなさつて、どうなさいます。

さう云ふ譯ではありません、貴下は御遠方へ御出になるお方ですから、さうなざるのが當然なのです。

(二五七)某家の老夫人の亡くなられた事を御聞きになりませんでしたか。そうですか、如何して御存知なのです。

一昨日先方から電報に接しました。それでは、如何なさる御考へですか。

晩聯を書いて、人に持たせて遣る積りです。

【註】「過去了」ハ死亡シタルノ意。「晩聯」ハ死者ニ對シテ哀悼ノ意ヲ表ス

ル對句ヲ書シタルモノナリ。

(二五八)先達は頂戴物を致しまして、御厚意有り難う存じます。

ほんの寸志で、御禮を仰言る程のものでは御座いません。

【註】「盛情」ハ御厚情ノ意。

(二五九)何卒もう一杯如何です。もういけません。

御隠しになつてはいけません、貴下のお強い事はよく存じて居ります。

【註】「喝不下去」ハ此レ以上ハモト飲メヌノ意ナリ。「海量」ハ酒量ノ大ナルヲ云フ。

(二六〇)遅刻致しまして済みません。イーエ、皆様も今し方

御入來になつたばかりです。

今日は御幾人御見えになりますか。外の方は居り

ません、御馴染の方々はばかりです。

【註】「叫您受等」ハ君ヲシテ待タシメタノ意。

(二六一)今度お別れしましたら、何日又御會ひ出來ますか分りま

せん、誠に御名残り惜しう御座います。全くです、私

もお別れが辛くてなりません。

彼方に御着きになりましたら、是非御便りを下さい。

屹度御便り致します。

【註】「捨不得您」ハ御名残り惜イ、又オ別レガ辛イノ意。「難受」ハ辛クハ

ナラン、又苦シイ或ハ堪ヘ難シノ意ナリ。

(二六二)昨日のあの會は散會が遅かつたでせう。左様でし

た、十一時にやつと散會しました。

御歸りになつて、直ぐ御寢みでしたらう。 歸つたら、

直ぐ寢む積りでしたが、圖らずも友人が宅で待つて居たので、二時迄話し込んで、やつと寢られました。

【註】「談天」ハ世間話ヲスルノ意。

【二六三】世の中に三本といふ事が有りますが御存知ですか。

三本とは何ですか。

一國の本は人民、一家の本は子弟、一身の本は精神に在りです。

【註】「本」ハ根本、又ハ基源ノ意。「在」ハ「ニアリト」譯ス。

何卒何か例を示して御聽かせ下さい。 例へば、備上

那兒去といふ語に就いて、若し「那兒」を強く讀めば聽き好いが、「去」を強めれば聽き苦しくなる。

御教示難有う存じます。

【三】これは誰れの寫眞ですか。 私共の家族のです。

このお年寄の方は誰方ですか。 伯母です。

今年お幾つです。 七十六です。

大層御丈夫ですな。 御蔭様で。

其の御婦人は奥様ですか。 左様家内です。

其の坊ちゃんとお嬢さんは誰方ですか。 それは梓と娘です。

御令息はお幾つですか。 今年やつと十八です。

### 問答之下

【二】先生、私の言ふ言葉は如何でせうか。 君の發音は大

變良く、四聲も間違ひがないが、只だ語調の違つて居る點がある。

語調とは何ですか。 君はそんな事さへ知らないのか、語學を習つた時に、何と先生が教へて呉れなかつたのか。

はい、其の點は教へられませんでした。 それでは君に言ふが、一つの言葉の中には、必ず一二個所主要な點がある、其の字の調子を強めれば自然と聽き好くなる。

お嬢様は。 あれより二つ下です。  
誠にお造化しあはせですな。 造化どころですか、世話ばかり焼けます。

【註】「堂客」ハ女ノ敬稱ナリ。「嫂夫人」ハ人ノ夫人ノ敬稱ナリ。「痴果」ハウルサイ、厄介、面倒等ノ意。

【三】或る子供が野原で一匹の兩頭の蛇を見た、そこで彼は家に駆け戻り、母に向つて泣きながら云ふには、ね、御母様大變です、私は兩頭の蛇を見ました、兩頭の蛇を見ると蛇度死ぬさうですから、生きて居られないかも知れません、母親が云ふには、と、ころで、お前はそれを如何しました、子供が言ふには、私は誰か、又それに出會つて、ひどい目に遇うといけないと思ひましたから、それでそれを打殺し

ました、母親が言ふには、それなら大丈夫です、お前がさういふ良い心掛であるからには、決して死ぬ様な事はありません。(春秋時代の孫叔敖の故事なり)。

【註】「可是」ハ此場合ハ時ニ、トコロデ等ノ意。

(四)新年お目出度う御座います。 お目出度う御座います。

御年始はお済みでしたか。 まだ四五軒廻つただけです。

お正月はどうしてお暮しでしたか。 變つた事もありません、例年の通りです。

どうぞ何か召上つて下さい。 結構です。 私はお暇致します。 まあ宜しいではありませんか。

まだ少し廻らなければなりませんから。 誠に有難う御座いました、何れ御年始に伺ひます。 それでは誠に恐縮です、私の伺ふのは當然のことです。

【註】「無非」ハドノ道又ハ要スルニノ意。「俗妻子」ハ俗習ナリ。

(五)何方からお入来ですか(訪問者ニ對スル常用語)。 宅から来ました。

丁度良い處です、有合せで一緒に喰べませう。 伺ふ度に御馳走になりました。

ほんの惣菜ですのに、御遠慮には及びません。 それでは御馳走になります。

これは餘り美味くありませんが、まあどうぞ召し上つて下さい。 大層結構です、充分です、もう頂けません。

本當ですか。 お宅で御遠慮など致すものですか。

それでは書齋でお茶でも飲みませう。

【註】「將就着」ハ我慢シテノ意。「討擾」ハ馳走ニナル意。「吃不下去」ハ満腹ニテ喰ベラレヌノ意。「粧假」ハノ振りヲスル意。

(六)此處に謎が有りますから當て、御覽なさい。 如何な謎ですか。

遠いと言へば遠いし、近いと言へば近い。 食物ですか、器物ですか、物品ですか。

喰べられもせず、使へもせず、用ふる事も出来ません。 それは不思議ですな、人名でも地名でもないのですか。

いえ。 私は實際分りません、どうぞ解いて下さい。 大晦日の晩と元日です。 やあ、實に好く出来て居ます。

【註】「宜」ハ明ニ示スノ意ニシテ、此場合ハ出題者ガ説明スル事ヲ云フ。

(七)私の如き者は何の位兵を率ゐられるか。 貴方では

やつと十萬です。 お前は如何か。 私は多い程宜しう御座います。

多い程宜いと云ふに、何故私に捕へられたか。 貴方は兵を用ふる事はお上手でなくとも、將を用ふる事がお上手ですから、夫れで貴方に捕へられたのです。

【史記】上問曰、如我能將幾何、陛下不過能將十萬、於君何如、臣多

多而益善、多多益善、何爲爲我擒、陛下不能將兵、而善將將、此乃信之所以爲陛下擒也(漢ノ高祖ト韓信ノ問答)

【註】「越」ハ越スレバ……スル程ノ意。「既」ハ既ニ……デア

カラニハノ意。

(八)或る學生が彼の先生に、世の中の事で何が最も容易たやすく、何が最も六ヶ敷いかと尋ねた處が、先生が言ふには、人を彼れ此れ批評する事は最も容易く、自身の缺點を見出す事は最も六ヶ敷いと、其の學生は又尋ねて云ふには、世の中で最も敬愛すべき者は如何なる人間であり、最も卑下すべき者は又如何なる人間であるかと、先生が言ふには、最も敬愛すべき者は獨立し得る人であり、最も卑下すべき者は奮發心の無い人であると。

【註】「恨ハ悪ム厭フノ意ニシテ、恨ムノ意ニ非ズ。不要強ハ向上シ

ヨウトセヌ、或ハ奮發シヨウトセヌノ意。

(九)凡そ世の中には四つの階級が有る、即ち士農工商である、

官吏と學者とを士といひ、耕作を爲すものを農といひ、技藝に従事するものを工といひ、商業を營むものを商といふ、此の四種の人は皆一定の職業を有つて居るが、其の他の無職の人等を總て遊食の徒といふ、若し遊食の徒が少く職業を有するものが多ければ、國家は富強となることが出来るのである。

(一〇)私は子供の時學校に於て甚だ懶怠で、縦ひ、授業中に於ても常に他の子供と巫山ふざ戯げて居つた、私共が巫山戯るのは勿論先生に隠れてやつた、或時先生に見附けられた、先生が言はれるには、子供等よ、其様に懶怠なまてはならぬ、汝等の眼は必ず汝等の課業に注がなければならぬ、汝等は戯れ益無し(三字經)といふことを知らないのか、今汝等は年若

く、丁度學術が上達する時である、誰でも若し誰か外見まへをして書物を見なかつたならば、汝等は來て私に告げるが宜しい、其の時私は私自身で云うた、一人私の最も嫌ひな學生が居つた、私は始終それを見詰めて居つて、若し彼が本を見て居なかつたならば、彼を先生に言附けてやらうと、暫くすると彼は果して傍見たづをした、私は直ぐ先生の處へ行つて彼れを言附けてやつた、先生はお前は如何して彼が懶けて本を見て居ない事を知つたかと言はれた、私は自分の眼で見て居ましたというた、先生が言ふには、お前は自分で見たのであるか、何と其の時お前の眼は本の上に於かれてあつたか、斯くして私は又先生に自分の失錯を捕へられた、私は他の子供が皆私を笑つたのを

見て、私は覺えずうなだれると、先生も笑はれた、最も爲ためになつたのは、其の後は二度と人の短處を捜す事をしなかつたことである。

【註】「聽ハ見詰メルノ意ニシテ、又聽ハ聞トモ書ク執レモ俗字ナリ、

(一一)凡そ人が世の中に在つては、欺かぬといふ二字が最も大切である、家に居て父を欺かないものは、官に就いても必ず君を欺かない、彼の華盛頓が子供の時、花園に父が珍重して居つた一株の櫻の樹があつた、或日のこと彼の父が外出した、彼は斧を執つて其の樹をば伐り倒した、聽きて父が歸つて來て、之を見て甚だ立腹して、家のものに向つて誰が此の櫻の樹を伐つたのかと尋ねた、問はれて、家人は驚きの餘りすつかり顔色を變へて、さうして云ふには、且

那様が大切になさつて居る樹を、誰か切る様な事を致しませう、其様してる處へ、華盛頓が外から歸つて來ました。父は訊ねて、おい、お前は誰が私が大切に居るあの櫻の樹を伐り倒したと思ふか、華盛頓が云ふには、それは私が切つたのです、他人ではありません、彼の父は其の答を聞いて腹を立てる處ではなく、却つて喜んで言ふには、お前が自分でお前が伐つたのだと云ふからには、如何にお前が嘘をつかない子であるかといふ事が分る、私は櫻を愛しては居るが、併しお前の偽りを言はぬと云ふ事は、櫻を愛するよりも更に一層嬉しいことだと云つた、之に依つて見れば、華盛頓は幼小の時より父を欺かなかつた、さればこそ、一世の明主となつた所以である。

【註】「砍斫下」ハ伐リ倒ス意。「遺跡」ハ毀損スル意ナリ。「並」ハ決シテノ意。

二三或日のこと、或一人の子供が城外で遊んで居て、突然大きな聲を出すと、直ぐ續いて向うの林の中にも、誰か一聲返事をした様に聞えた、その子供は不思議に思つて、其處に居るのは誰れだと尋ねると、全く不思議だ、同じ様な聲で、此方に向つて其處に居るのは誰かと云うた、彼の子供は考へた、これは屹度誰かが自分を揶揄つて居るのだらうと、そこでお前は馬鹿だなと云ふと、又向うでも同じ様に馬鹿だなと答へた、子供は腹を立て、聽て己れを眞似する奴を罵り始めた、彼が向うを罵れば罵る程、向うでも同じ様に己を罵つた、彼は立腹の餘り、驀然森を望んで駈

け出し、その者を捜したが、一向に見當らなかつた、是非なく家に戻つて、その話を彼の母に訴へた、すると母が言ふには、それはお前の謬り、畢竟お前自身が自身の聲を聞いたのに過ぎない、それが所謂反響といふものであると、そして反響の譯を云ひ聞かせ、又言ふには、若しお前が結構な話をしたならば、お前も矢張結構な話を聞いたのである、人が世間と交際する理も其の通りで、他人が如何に自分を待遇するかは、詰り自分が如何に他人を待遇したかの反映である、若しお前が人に好くしなければ、誰もお前に好くはして呉れるものではない、それだから汝に出づるものは汝に歸ると云ふ言は、即ち此の意味であると教へた。

【註】「出乎爾者」孟子梁惠王篇下ニ見ユ

二三或人が夜半に楊震に賄賂を持つて行つた、楊震は頂戴出來ないと云ふと、其の人が言ふには夜中ではあり、知る人もなし、何の氣遣ひがありません、楊震が答へて天知る地知る我れ知る汝知る、何で知らないものが無いと言へようかと。(楊震ハ漢ノ時ノ人、楊震四想ノ語アリ)

二四一人の將軍が有つて、其の弟が軍隊で將校となつて居つて、軍律を犯した、將軍は直ちに軍法に據つて死刑に處した、翌日葬儀の時に彼の將軍號泣して云ふには、汝を殺した者は將軍で、汝を泣くものは兄ぢやと。  
 二五我々の處に非常に健忘症の人が有つて、引越す時に自分の女房を忘れて行つた。それは何も珍しい事でもない、

柴だの紂だのと云ふ人は自分の身體まで忘れて仕舞つた。

二四不像といふ一種の動物が有りますが、何故其の様な名を付けたものでせうか。それは其の像が馬かと言へば馬でもなし、牛かと言へば牛でも無し、又それを驢馬か鹿かと言ふと又驢馬でも鹿でもない、それで四不像と名づけたのである。(似テ非ナルヲ護ツタ言葉ナリ)。

二七或處に一匹の犬と兎が居つた、或日其の犬が兎を追ひかけ、山を越え谷を越え、久しい間駈け廻り、とゞの詰り二匹共疲れて死んで仕舞つた、一人の農夫が見付けて何の苦もなくうまくくと、兩つの取り物を手に入れた、之れが即ち鵝蚌の争ひ漁夫の利と云ふのである。

【註】「鵝蚌」ハ鵝ハ鳥ノ名、蚌ハ蛤ノ類ナリ。「驢齊」ハ結局ノ意。

二八貴下に故事を一つも伺ひしますが、朝三暮四とは如何な事を云つたのですか。それは或人が澤山の猿を飼つて、毎朝パンを三つ宛與へ、晩には四つ與へた、すると、猿共は甚だ不服に感じました、そこで改めて朝四つ晩三つとした處が、大に満足しました、夫れ故手段を以つて人を誑かす事を朝三暮四と云ふのです。

【註】「怎麼回事」ハ「何ハ一個ニ同ジ陪伴字ナリ」。「驢」ハ「飼フ、喰ベサセ」ル等ノ意ナリ。

二九ネー起き給へ、鶏が鳴いてるぞ。眞に好い聲だなあ、出かけよう、一番鎗の功名は誰がする。

祖逖與劉琨共被同寢、中夜聞荒鷄鳴、琨覺曰、此非惡聲也、因起

舞 (晉書)

三〇二十五年待つて來なかつたなら、何處かへ嫁に行つて下さい。妾はもう二十五歳です、又二十五歳も經つたなら、棺の中でお待ち致しませう。

【註】「只好」ハ仕方ナク、又止ムナク等ノ意。

三一木綿の着物を着、木綿の帽子を被つたればこそ、衛の文公は國を興した、それに依つても、如何に儉約が治國の要道であるか、分るだらう。

【註】「好着兒」ハ良法ノ意。「着」ハ「同棋」ノ一著ノ意。上平「チヤオ」ニ發ス。

三三孔子東山に登つて魯の國が小さく見え、泰山に登ると、天下迄が小さい様に見えた、之れは人の地位は一段一段と高くならねばならぬと言はれたことである。

【註】以上ハ孟子盡心章句上ニ見ユ。「顯著」ハ感ズルノ意。

三三此の事件は餘り面倒ですから、恐らくは私の方では叶ひますまい、他に適當な人を御選び下さい。逃げ廻つてはいけな、此の事はお前の外に誰が遣れるものがあるか。

【註】以上ハ恭親王ト李鴻章トノ對話。

三四所謂夷を以て夷を制すとか、近攻遠交といふ事は、何れは外交の手段に違ひはありません。僕に言はすれば、結局は自己の不利に過ぎないので、左様ですとも、目下某國と某國の關係にしても、好い例ではありますまいか。

【註】「末了」ハ結局又ハ遂ニハ等ノ意。

〔三〕閣下が再度御赴任になりましたから、吾が兩國の交際は益々親密を加へる事になりましたのは、全く御盡力の結果と存じます。自分の様な者が、過分のお讚めに預ります事は、實に慚愧の次第であります。それこそ御謙遜と申すものでせう。御挨拶で痛み入ります。

【註】「謬承」ハ過ツテ稱讚ヲ受クノ意。「仗着」ハ依ル、頼ルノ意。

〔三〕此の刀は私が秘藏して居つたものですが、何卒紀念として取り置き下さい。御好意は誠に忝う御座います。永らく御懇親を願ひまして、今日御別れに何も差上げることが、御秘藏の品を戴いては濟みません。

物が御座いませぬ、諺にも寶劍烈士に贈ると云ふ事があります。貴方の様な方に差上げないでは、誰に差上げませう、是非御納め下さいませうやうに。それでは有難く頂戴致します。

【註】「盛情」ハ御厚情ノ意。「相好」ハ仲好シ、熟懇ノ間柄ノ意。「敬領」ハ忝ケナク拜領スル意。

〔三〕維新と云ふ言葉は殆ど通用語となりましたが、これは一體如何なる故典でありますか。それは大學の「周は舊邦と雖も其命維新なり」と云ふ句から出て居ます。古人は又洗面器に「苟に日に新に、日に日に新に、又日に新なり」と云ふ字を書き付けました。之れは人に時々刻々自省して忘れぬ様にと云ふ注意であります。

さうですか、私は今日始めて字の出處が分りました、有難う御座います。どう致しまして。

【註】「幾乎」ハ殆ンドノ意。「領教」ハ教ヲ受ケテ有難シノ意。

〔三〕魚偏に厥と云ふ字を書いて何と讀みますか。桂とも言ひ厥とも讀みます、併し魚屋は皆桂魚と呼んで歩きます。

して見れば、桃花流水鱖魚肥と云ふ詩は無論桂と讀むのでせうね。左様ですとも、若し厥とでも讀めば笑はれます。

【註】「吟唱」ハ賣聲或ハ掛聲ナリ。「桃花流水鱖魚肥」ハ唐人張志和ノ詩ナリ。

〔三〕昨日或處で「得過且過」と云ふ事を聞きました。それは如何いふ意味です。一つの喩へで、冬の夜段々冷えて來ると、鳥が樹の上で寒い寒い、夜が明けたら巢を掛けようと鳴いて居た、夜が明けると、今度はどうかかかか過せる哩と鳴きました。

さてはさう云ふ意味なのか、一時凌ぎと云ふ事は、成程人間の弱點だ。

【註】「得過且過」ハ過セル間ハ過スノ意。「樂一時」ハ樂ノ出來ル間ハ樂ヲスル、皆因循姑息ノ意。「我輩過」ハ韻ヲ合セタルナリ。

〔三〕人は一日でも鹽を缺く事は出来ませぬね。君は夙くの昔に煙草を止めたと云ふ話でしたが。聞き違へてはいかん、僕は鹽と言つたので、煙草とは言は

ない。鹽か、鹽なら必要な事は言ふ迄もない。

【註】「鹽」ハ同音異聲ナリ。「打」ハ聽キ違ヒト譯ス。

如何したのだ、君の身窄しい風は、病氣でもして居るのか。つまりぬ事を言ひ給ふな、僕は貧ぢや、病ぢやない。御覽、此の一問一答は何と面白いではないか、僕は漢文の妙は全く音聲に在ると思ふのじや。

【註】「韻」ハ醜イ、見苦シイ、耻シイ等ノ意。「亂來」ハヒヤカス、又ハ無

茶ニ云フノ意。「貧病」二字皆ピンノ音ナリ、其音ヲ綴リテ灑落

タルナリ。以上(一)ハ子貢ト原憲ノ問答、孔子家語ニ見ユ。

私が考へますに、人は素質が肝腎です、學問等は何になりませう、試に南山の竹に譬へて申せば、眞直ぐに作られた箭は、如何に遠くまで達し得るでせう。それに違

ひない、併し羽を附けたならば更に遠くに行くだらう。

【註】以上ハ子路ト孔子ノ問答、孔子家語ニ見ユ。

桃太郎の鬼征伐。昔、或處に老夫婦が暮らして居

た、或日爺さんは山へ柴刈りに、婆さんは河邊へ洗濯に行つた、丁度洗濯して居る時、不圖見ると、上流から二つの桃が浮いて來た、一つは赤いので、一つは青いのであつた、婆さんは見て、口の中で赤いのは此方へ來い、青いのは彼方へ行けと念じた、二三遍念じると、其の赤い方は眞實に彼の方へ向つて來た、そこで婆さんは急いで手で擲ひ上げて見ると、スツカリ熟し切つた桃であつた、婆さんは大層悦んで、着物を洗ひ了り、其の桃を大事に持つて家に歸つて、只管爺さんが歸つて來たら一緒に喰べやうと待つて

居つた、暫くすると爺さんは歸つて來た、婆さんは彼に二言三言定りの挨拶をして、其の後で言ふには、もし貴方、今日私は一寸手に入れた物がありますから、どうか召上つて下さい、と言ひながら先刻の桃を取り出して爺さんに見せた、爺さんが言ふには素敵な桃だな、二人で一緒に喰べませう、そこで庖刀でそれを二つに切ると、忽ちオギアというて一人の兒が飛び出した、二人はこれは一體如何した事だらうと言ひながら暫く呆氣に取られて居つた、婆さんが言ふには、ア、私は想ひ出しました、神様が我々夫婦が此世で何も不徳な事もしないのに、半世子供の無いのを憐まれて、そこで今此桃を藉りて我々に一人の子供を授けられたのではあるまいか、二人で大切に育てま

せう、爺さんはお前の言ふ事は如何にも尤だと言つて、そこで早速其の子に名を付けた、桃の中から生れたので名を桃太郎と呼んだ、此の桃太郎は普通の小供と違つて、丈は高く、人並すぐれた力があり、其上大層伶俐であつたので、夫婦は掌中の珠の様に大事にした、十五歳になると、身體は已に一人前となり、其の上大層度胸があつた、人の噂に或る島に澤山の妖怪が居り、人を害し悪事をするので、誰も恐つて行かうともしないとの事であつた、之を聞いて、桃太郎は其の妖怪を退治して、此の害を除かうと思ひ立ち、或日のこと、兩親に言ふには、お母さん黍團子を少し喰へて下さい、婆さんが言ふには、何で黍團子が要るのか、彼が言ふには、私は鬼ヶ島へ鬼退治に行かうと思ひま



す、婆さんは吃驚して言ふには、子供の癖に如何して鬼などが討てるものか、無鐵砲の事をしないで、柔順しく家で私達に孝行をしなさい、桃太郎が言ふには、邪は正に勝たずで、如何して人として鬼を退治せられぬと言ふ譯がありませうか、私が行つて鬼共を退治し、澤山の寶物を持ちて来て差し上げますが如何ですか、何卒御安心なさつて私を遣つて下さい、爺さんは桃太郎がさう言ふのを見て、婆さんに勧めて言ふには、此の子は生れ付き外の子供と異つて居る、今彼が鬼退治に行かうとするからには、或は退治し了せるかも知れぬ、構はず遣つては如何か、婆さんはそれを聽いて詮方なく、若干の黍團子を作つて遣つた、桃太郎は萬端準備が終るや、切に兩親は安心して寶物を

持ち歸るのを待ち下されと宥め、そこで吉日を擇んで出掛けた、家を離れて間も無く、道の傍から、突然ワンと一聲一匹の犬が出て来て、桃太郎の前に跪き、お辭儀をして言ふには、桃太郎様貴方のお腰に着けていらつしやるのは何でありますか、桃太郎は言うた、これは日本一の黍團子である、其の犬が言ふには、どうぞ一つ下さい、私は貴方のお伴致しませう、桃太郎はそこで一つ喰べさせ、すると彼は果して跟いて来た、暫く行くと、突然又一つ色彩鮮なものが出て来て、目の前でギラツとした、外ではない一羽の雉であつた、桃太郎の前に飛んで来て、羽搏きして言ふには、桃太郎様其のお腰に着けて居らつしやるものは何ですか、桃太郎が言ふには、之は最上の黍團子なのを知

らないか、其の雉が言ふには、オ、それが黍團子ですか、私は今まで喰べた事がありません、若し一つ下されば、私は御案内致しませう、桃太郎は又一つ遣ると、果して先きに立つて道案内しながら行つた、丁度其の時積み上げた草の中から一つの毛長で赤顔のものが跳び出し、キヤツキヤと叫んで言ふには、私は猿です、貴方のお腰に着けていらつしやるのは黍團子ではありませんか、私に一つお恵みになつて日本一の結構な物を喰べさせて下さい、桃太郎は笑つて言ふには、お前は猿であるから、流石外の者より少し賢い、お前が黍團子であると當てたからは、私はお前に恵んでやる、お前は私と一緒に行く氣があるか、猿が言ふには、私に下さつたからは、私は骨を折らずに居られ

ませうか、是に於いて桃太郎は三匹の供を得て前進した、抑も此の鬼ヶ島には鬼の關所が有つた、其の日門衛の小鬼が遙に一人の人間が三匹の禽獸を連れて此方へ來るのを見付け、急ぎ中へ駆け込み鬼の頭に告げて言ふには、外に誰か來ました、頭は一匹小鬼を遣つて誰であるか見させた、暫くすると其の小鬼が駆け戻つて来て言ふには、來たのは一人の若者で、身に刀を佩ひ、旗を挿し、大層強さうであり、尙一匹の犬と一匹の猿と、一羽の雉と連れて居り、何れも大層キビキビして居ります、あの様子では大方私共を征伐に來たのでせう、頭はこれを聽き、驚いて言ふには、こりや大變だと、慌て、命令を下し、彼の眷屬共を皆關所に集め防禦せしめた、暫くすると赤鬼、黒鬼、青鬼と其

他の小鬼共百餘匹が一團となり、關所に詰め寄せた。此の時桃太郎も到着し、丁度關所を偵察して居ると、フト見れば、一匹の大鬼が現れ、足には虎の皮のツボンを纏ひ、手には一本の鐵棒を持ち、門上に立ち、大聲で桃太郎に向つて言ふには、お前等は何處から何處へ行くのか、此處は鬼ヶ島で、從來人を入れないのである。お前は歸つた方が得策だ、若し強ひて進んで來るならば、お前等を皆食うて仕舞ふぞ、定めしお前等は途を間違へたのであらうから、俺もお前等を赦してやる、急いで歸れ、此處でムザムザ自分の命を捨て、後悔せぬ様にせよ、桃太郎は聽いて覺えず怒つて言ふやう、汝等は我を誰と思ふか、我こそ日本の桃太郎である、汝等が此の地に在つて人を殺し世を騒がせ

國法を蔑にすると聽き、それで態々征伐に來たのである。詩經にも普天の下王土に非ざる無く、率土の濱王臣に非ざる無しと言うてあるのに、汝等は何奴で大膽にも此の地で濫りに荒れ廻るか、今我等は汝等を皆屠り、日本の威光を知らせてやる、と言ひながら、犬雑猿に命じて突進せしめた、鬼の頭は桃太郎といふ名を聞き、心では大層恐れだが、強ひて去り氣なく装うて言ふには、此の野郎馬鹿に大膽で命知らずだ、俺が汝等を恕す事は、汝等には此の上無き幸福である、それに歸りもせず、押強くも我等を討つ等と言ふ、俺の此の鐵棒の味を喰はせなければ、後悔すること知らないだらうと言ひながら、門上にて鐵棒を一寸振り廻し、態と己の力を示した、併し一方には人の侵入

を恐れ、小鬼共に門を堅く閉めさせた、双方睨み合つて居る時、雉は俄に門に飛び込み、門を啄き開けた、犬は門の開いたのを見て、猛然と飛び込み、彼の黒鬼の足を一噛噛んだ、黒鬼はアツと一聲逃げ出した、彼の猿は不意に赤鬼の後に跳び付き、爪で其の頸を一搔搔き破つた、赤鬼も一聲これは叶はぬと叫んで逃げ出した、其の時桃太郎は急に進み行き、刀も抜かず、鎗も使はず、手に一本の扇子を持つたのみで、彼の鬼の頭を打つた、頭は打たれて鐵棒も投出し、慌てゝ爲す術を知らず、只々地面に長り、頻りに憐みを乞うた、桃太郎は命じて彼を縛らせた、他の鬼共は頭が捕へられたのを見て、何れも桃太郎の前に來て命乞ひを哀願した、桃太郎は順々に正道に戻る様説諭した上、彼等の罪を赦した、鬼の頭は無上に喜び、有る限りの寶物を悉く桃太郎に差出した、桃太郎はそれ等の品物を犬雑猿に分け與へ、其の中より數種の珍しき物を擇び出し、家に持ち帰り、彼の父母に差出した、其の後鬼ヶ島は悉く日本に歸順し、それ等の鬼共も段々人間に成り變つた、それより桃太郎の威名は何處でも知らないものは無かつた、今日日本の風俗として、母が子供を教えるに、皆桃太郎を以て手本として居る、それ故日本人は生れ落ちると、鬼を征伐する事を知つて居る。

【註】「上浦裏」ハ上流又ハ川上ナリ。「念切」ハツブヤク、又ツブハツ

云フ意。「擲上」ハ水上ヨリスクヒ上ゲルヲ云フ。「喰々」ハ食ベル、味ヲ意。「家常話」ハ平常ノ挨拶、オキマリノ挨拶ヲ云フ。

了ハアキレル、魂消魂消ゲルノ意。「老爺爺老爺爺」ハ神様又ハ天道様ノ意。「半輩子半輩子」ハ半世又永ラクノ意。「膏力膏力」ハ腕力。「疼得疼得」ハ可愛ガリ方、疼ハ痛ノ意ニシテ愛ノ極ヲ疼ト云フ。「鬼怪鬼怪」ハ妖怪、怪シキモノ。「嚇了一跳嚇了一跳」ハ吃驚シタ、タマゲタノ意。「孝順孝順」ハ從順ニ命ヲ奉スルコト即チ孝行ノ意。「孝敬孝敬」ハ日ノ上ノ人ニ物ヲ贈ル事。「只管只管」ハヒタスラ、カマハズノ意。「只得只得」ハ是非ナク、仕方ナシニノ意。「竟管竟管」ハ専ラ、只夫レ丈ケノ意。「一燒一燒」ハキラツク、輝ク。「靈便靈便」ハ敏捷、又賢イノ意。「慌々忙々慌々忙々」ハアハテフタメキノ意。「湊湊」ハ集メル意。「幸幸」ハ福フル意。「扎挣扎挣」ハ救ス意。「混掄混掄」ハムヤミニ振り廻ハス意。「亮亮」ハ示ス意。「開交開交」ハ事ノ終ラザルヲ云フ。「聞上去聞上去」ハ驚進スル、猛然トシテ進ム意。「敬開敬開」ハ敬ニテツ、キ開ケル意。「冷不防冷不防」ハ不意ニ、突然ノ意。「哀告哀告」ハ哀願、懇願ノ意。「挨着次兒挨着次兒」ハ順次ニノ意。「榜樣兒榜樣兒」ハ手本ノ意。

散語

第一

お話しなさい。何故黙つてますか。十分話しました。私はまだ旨く話せません。私に話して聴かせて下さい。私の話は貴方の様に旨くはありません。私は彼と取り極めました。私の言ふことは分りますか。私の言葉は未だ稽古が足りません。彼れの話は餘り上手でありませんがマア分ります。此の言葉は北京語で如何言ひますか。彼の話は甚だ明瞭です。君の言葉も可なりです。君の言葉には誰も叶はない。誰も彼程旨く話せない。彼の言へない言葉はない。君の言葉は彼に比べて如何ですか。私は如何して彼と較べ

ものになりませう、ひどい違ひです。彼は目下何でも言へる様になりました。殆ど皆話せる様になりました。話したい事は澤山有りますが、口に出て来ません。私は言ふことは言へるが、まだ聞き取れない。此の言葉はどう言うて見ても、旨く言へない。私は言はないのではない、言はれないのです。今日は何も用意がないので別段話す事が有りません。少しゆつくり言うて、其の様に早く言うて下さるな。さう言うても分る事は分りますが、どうも餘り口調が良くありません。かう引き繰り返して言へば聞きよくなる。私は彼に大略話しました。一寸には言ひ切れません。言ひ出せば長くなりませう。言葉は詰り此様云ふ點が六ヶ敷しいのです。一年學んだら大概話せる様になるでせう。私共は矢張り昨

日の話を続けませう。若し貴方の様に此様に上手に話さうとするには、それこそ全く容易ではありません。此の話は先を言ふには及びません。此の事は大して話す程の事はありません。理由を言ひ出せない。貴方は直接彼に話したのですか。私共は先づ話をはつきり定めた上で遣りませう。其の事は後日又お話し致しませう。私は何時其の様な事を言ひましたか。彼等は言葉の行違ひで喧嘩になりました。貴方は彼等に仲裁をしてやりなさい。彼は如何しても本當の事を言はない。私は腹藏なく言つて仕舞ひませう。彼は益々要領を得ない(下らぬ)事を言ふ。話したり笑つたり大層賑かです。彼等は何を話してあんなに賑かなのでせう。言うても無駄です。彼を運動員に頼む。まだ何か言う事が有り

ますか。言ふ事が益々成つて居ない。言ふ事が丸で出鱈目ばかり。あの人は何か言ふと直ぐ金の事だ。取り止めのない事ばかりで、真面目な事は言はない。何の彼の言ふが矢張り金の爲だ。彼は口だけで實行は出来ない。言ふならばスツカリ分る様に言はなければいけない。こんなに大きくなつて、まだ叱られて居るのか。話が有るなら構はず仰言ひ、御遠慮なさるな。此の言葉は丁寧と言ふには何う言ひますか。若し斯う言へば彼は承諾します。私は言ふ方が宜いか、言はない方が宜いか。君一人だけ言はずに彼にも言はさせなければいけません。口と腹とは違ふから彼のペテンに掛かるな。これは秘密の事ですから決して人に話してはなりません。これは言ふべき事でない、言ひ出すと、それこそ物笑ひだ。

言葉は流暢な程聴き宜い。言うた通り實行する。初歩の時には成るべく餘計に話す練習をして耻しがつてはならない。

【註】「説不上來」ハ云ヘナイ意。「比得上」ハ比較スルコトガ出來ル意。

「大説頭」ハ大ナル云フ程ノ價值ノ意。「所以然」ハ其理由ノ意。「胡

説八道」ハヤタラニ出鱈目ヲ云フ意。「張嘴」ハ口ヲ開クノ意。「自

請」ハ構ハズ、遠慮セズノ意。「接説」ハ接ハ此場合被ノ意ニテ叱ラ

レルノ意。「上機」ハワナニカ、ル、ベテンニカ、ル意。「脆」ハサク

イ、輕イ、ハツキリノ意。「説到那兒辦到那兒」ハ云ツタ丈ケヤル、即

チ言行一致ノ意。「發性」ハハニカム、耻シガルノ意。

第二

彼の商賣はメツキリ發展して來た。これだけの仕事は一日掛つても爲了せない。それを壊して新規に作り直せ。君は

餃子が作れるか餃子トハ肉ノ餡ヲ包ミ餅。彼は又一つ善い事をした。彼は矢張りあの商賣をして居ますか。彼の爲す事は皆間違つて居る。昨晚或る夢を見た。君は矢張りあの夢を見てる。此の事は誰も遣り人が無い。此の事は、私には出来ない自分ノ性質上爲。君が作れないからには、私も旨く出来ない。あの事は不面目な遣り方をした。早く出来れば早い程宜しい。折角の材料を臺無しにされた。彼は自業自得だ。飯は炊けたが、菜はまだ作りません。何事を爲すにも是非誠實が無くてはならぬ。出来上がりしましたら、尙直して頂かなければなりません。彼は仕事が敏捷だ。此の料理人は物を作るのに不潔だ。彼の詩は甚だ有名だ。仕事もせずに遊んでばかり居る。毒を喰はゞ皿迄。彼は仕事をすることに少しも

熱心でない。大事を爲すからには怨まれる事を恐れてはならない。かうすれば屹度大丈夫だ。彼は仕事が甚だ速い。彼は果して成功した。あの人の遣れない仕事は無い。今はまださうする事は出来ない。この位の事が遣り切れないのか。是非規則通りに爲さなければならぬ。あの事は彼が一手に引受けた。爲すには面倒だし、爲さねば又不面目である。此の月は澤山爲なければならぬ事がある。若し此の様になれば眞實に彼に都合だ。あの事は私は御手傳ひ致しませう。彼は仕事が愚圖だ。彼は事務の才が有る。彼の仕事は益々失敗だ。彼の仕事は何時中絶する。爲すからには爲し遂げなければならぬ。手に了へぬ仕事に限つて彼は遣りたがる。彼は如何して仕事が出来ようか。折角の

良い仕事を皆彼に打ち壊された。今後は此の様にしてはならぬ。彼は仕事遣り切れなくなつて止め掛けた。爲るなら一つ大きな事をせよ。言うばかりでは駄目だ、實行しなければいけない。

【註】「不做臉」ハ顔ガ立タヌ意。「任」ハサヘモノ意ニシテ例ヘベ任誰都  
不見誰ニモ會ハヌノ如ク用ニ。「不做」ニ不休ハ諺ニシテ、ヤブ  
レカブレノ意。「他執事因循」ノ不簡決以下折衝内ノ語ハ皆同義  
ナリ。「備」ハ一方ニ片寄ル意。

第三

これは買ひ方が高い方ではない。買ふ買はぬは兎に角構はず御覽下さい。折角来たんだから幾らか買ひませう。此等の品は如何しても買はねばならぬ。どうせ買ふのなら好い

のをお買ひなさい、此様なヤクザもの(劣等品)を買つて如何するのです。此の値では君には買へませんよ。彼等の商ひは皆掛値がありません。若し澤山お買ひ下さるならば、二つ三つおまけ致しませう。お前は本當に買方が旨い。此の時計は何處でお買ひになつたのですか。これは買つたのではなく貰つたのです(得ハ抽籤、賞與等ニ依リテ)。これは露店で買つたのです。これは皆如何しても誂へなければなりません、出来合は賣つて居ません。若し正直の値段なら幾らか買ひませう。お前の云う値段は餘り法外だ。明日横濱へ御出の時に忘れずにハムを二本買つて来て下さい。家に澤山使はずに有るのに、又買つて如何するのだ。買へば買ふ程着け上がる、彼れの店の物は買ふな。此の様に上る事を早く知つたら、去

年の内に澤山買込んで置く筈であつた。彼の買入れたのは一年食べるだけある。此等の品は何の店でも賣切れて、如何しても手に入りません。貴方支那靴をお買ひなさるのなら、小市兒(北京城外)へ行つてお買ひなさい、欲しい型はどんなのでも有りませう。私の言葉は彼に餘り通じないから、お前替つてもう少し負けさして呉れ。此れはギリギリの値段で此の上負けては商賣にならないと申します。若し纏めて買つて下さるなら、少しお引き致しませう。若し小賣なら此の値段より仕方がありません。買ふ時には疵の有る事を氣が付きませんでしたが、家に歸つてから分りました。目下市場は買人が多くて賣人が少い。只今買つては恐らく引き合ふまいから、年を越してから買ひませう。貴方紙屋へ行つて買へば

如何な文具類でも皆有ります。買上手は賣上手には叶はない。安物買ひの錢失ひ。詰らぬ物を買ふとも買喰を控へよ。手前味噌。骨董を買入れる。諺に掛賣は二割高といふ、矢張り現金買ひが宜しい。圖に當ると圖に乗る。空賣買。

【註】「賣不着」ハ利益ガナクテ賣レヌ意。「圖賤買老牛」以下二句諺ナリ。

第四

今私は服装を更へようと思ひます。内地を旅行するには支那の服装をした方が多少便利であるからです。普通の着物を一揃ひ作るには大凡幾許かゝりますか。平常衣は矢張り綿服を着る時が多い。絹の單衣を一枚作るには何尺要りますか。袖無は矢張り縹子が宜しい、併し私は蝦老茶が欲しい。

羽織を着れば少し改まります。織緞で單衣の上衣を作ると涼しくもあり見場も宜い。麻の肌衣は着心地が宜い。夏は誰でも胸抜を着たがる。尙扇子を持たなければいけない。私が此の様な風をすれば一端支那人に見えるでせう。金巾や羅紗を着るのは費用が要らぬ爲です。四季の衣裳の中では毛皮の着物だけが古い。若し擇り好みをすれば値段に限りが無い。貂の皮は最も高く一枚千圓するのもあります。もう服装も出来たから家を借りようと思ひます。何處かに家が無いか捜して下さい。宿屋住ひは餘りゴクゴクする。寺の部屋を借りても宜しい。素人下宿も餘り便利でないでせう。私は成るべく奥座敷に住ひたい。一番善いのは一軒建です。家は幾らもあるが近處が五月蠅い。あの家を貴方

テハ意匠ヲ凝ラス、又ハ吟味スルノ意。  
「不好搭」ハ交際シ惡イノ意、租不起ハ資力ナクテ借り得ザルノ意。  
「開張」ハ其ノ都度費用ヲ書出サセテ現金ヲ給與スルノ意。

## 第五

此の方は誰方ですか。私に御紹介下さい。豫て御尊名を承つて居りました。號は何と仰言いますか。何卒御自由になすつて御遠慮なさいますな。何卒お平に。暫くでした。近頃はとんと御無沙汰致して居りました。此頃御變りありませんか。何れ御伺ひ致します。私はお暇致します。失禮致します。何れ又御目に懸ります。御暇の節は何時でも御入来下さい。どうぞ御用をなすつて下さい。宅で御待ち致します。これでお別れ致します。貴方に一つ御願ひが御

は見ましたか。あの家は大層氣に入つたが、何分家賃が高過ぎて私には借りられない。新に移轉した者は、近處へ挨拶に行かなければならない。成るべく自身で行つて名刺を出す方が宜しい。此の家には南京蟲は居ますまいね。井戸が有りますか。庭に木が無くて非常に熱い。市内の家は高く、如何しても一間一圓位です。私共は三間あれば十分です、外に臺所は是非要ります。尙一人炊事の出来る下男を捜さなければならぬ。大した仕事は無い、只飯を炊いたり、部屋を片付けるだけだ。一ヶ月三圓の給金で、食事は此方で持つ。食事は彼に請負せても、又は現金拂でも宜しい。人物は確實で阿片を飲まない者が欲しい。

【註】兩截兒布衫兒ハ上半麻ニテ下半絹ノ單衣ナリ。講究ハ此處ニ

座います。私は申し上げ兼ねます。何でもないではありませんか。構はず仰言ひ。私は必ず御盡力致します。私は必ず背を折ります。一昨日は留守で失禮致しました。

昨日は頂戴物を致しまして、有難う御座います。御散財を懸けました。お歸りになりましたら、奥様に宜敷く。今日は御變びに上りました。遅れまして相済みません。道中御無事でしたか。荷物は全部着きましたか。海上では何も御障りは有りませんでしたか。途中色々御世話になりました。知邊は無し、土地は不案内ですから、何分御世話を願ひます。これは某君からの紹介状です。私は突然上りまして、誠に失禮です。今後何分宜しく。お父様は大層御元氣ですな。彼の養生が宜しい。貴方は大層お仕合せです。御病氣はお直り

になりましたか。氣候不順ですから、一層御注意なさい。こんなには御心配下さいましては、誠に相済みません。今日は何の用意も御座いせんが、どうぞ澤山召上つて下さい。度々御馳走になりまして、誠に恐縮に存じます。

御暇致します。御尋ね有難う。どうぞ其儘で。御目出度う御座います。同上。御馳走様。申譯有りません。御配慮に預りまして。御笑草です。御苦勞掛けまして。御鄭重な事です。御褒に預りまして恐縮です。結構な頂戴物を致しまして。誠に御馳走様です。誠に御粗末でした。誠に恥しう御座います。相済みません。御構ひも致しませんでした。どうぞ御宥して下さい。

【註】「引薦」ハ直接引合ハセルノ意。短過去請安ノ短ハ欠クノ意、過去

ハ行クノ意。「兩便」ハ雙方ノ便宜ニ從フ意、此場合ハ別レル際ノ辭ナリ。「就懐」ハ此場合故障ノ意。「照拂」ハ世話スル意ニテ「照應」ニ同ジ。「胃味」ハ無様ノ意。

## 第六

入らつしやい。何を差上げませうか。私共では掛直を申しません。品は上等で値段は安い。今後何分御最負を願ひます。御主人は何と仰言いますか。屋號は何と言ひますか。近頃商賣御繁昌ですか。これは新着の品ですが、少し如何ですか。お間に合ひにならなければ、御戻しになつても宜しう御座います。値段が高過ぎる、少し負けなさい。幾許にお附けになりますか。これは元價で差上げるのです。一つ一圓です、それよりはいいけません。値切つてはいけません。私共

ではお高いことは申しません。現金には及びません。掛に致して置きます。何斤有るか量つて見て下さい。お前の家では小賣をするか。手附金は幾ら遣らうか。今日は如何な相場ですか。相場は又少し上りました。一弗は銅貨幾許に當りますか。五十錢紙幣を遣らう。見本が有るか。此の模様は餘り流行らないから、流行のが欲しい。繭綯は使ひ途が最も廣い。一疋は何尺あるか。これは一尺幾許に當るか。私は無地ののが欲しいので、模様のは要らない。外にお入用は御座いせんか。お宅へお届け致します。此の數年外國品が甚だ流行します。此の種の品は販路が廣い。彼が仕入れた品は、頗る支那人向きです。彼は商賣上手です。今年は生絲相場が下落して居ます。市上には澤山賣捌けない商品

が有ります。あの銀行は甚だ確實であつたのに、如何して缺損をしただらうか。彼は全く爲替で損をしました。某國は日本の一大顧客である。

【註】「對路」ハ用途ニ叶フノ意。「照本兒」ハ本値ニ依ルノ意。

## 第七

貴方の學校は何年で卒業しますか。毎月幾許の學費ですか。授業料と食費も皆其内に入つて居ます。全部で幾組に分れて居ますか。今又新に課目を増しました。北京の先生を招聘しました。應募者は既に超過しました。學校の規模は頗る立派です。學校の規律は非常に嚴格です。今は寄宿生が居りますか。先生は教へ方が上手で、學生も大層勉強します。今普通學は皆修了しましたから、専門學校へ入るのです。優

等生には賞品が出ます。何處の國へ留學するにしても、是非其の國の眞價を究めねばなりません。外國の學問が有益だとすれば、固より學んでも宜しいが、若しそれが爲め盡く自國の學問を放棄する様では、随分固つたものだ。

【註】「報考的」ハ受験申込者ナリ。「住宿的」ハ寄宿生ナリ。

第八

清の太祖と云ふ人は英雄であります。初代は順治帝です。聖祖とは即ち康熙帝の事です、帝は聖人と言ふことが出来る人でした。雍正上諭書名は官吏の弊害を説いた書であります。乾隆は清朝の最も隆盛なる時代であり、國富み民榮え、皇帝は二度も南方へ巡幸せられたが、それは盛儀であつたと云ふことです。嘉慶道光以後は、漸く衰微の兆を現はした。

咸豐年間は、長髮賊の亂が其の極に達し、英佛聯合軍は北京に侵入し、皇帝は熱河に避難された。國運は人の運勢と同じ様で、一盛一衰が有ります。共和だらうが、立憲だらうが、若し果して能く人民を保護するものが有りとすれば、天下は太平を得られます、故に孟子は民を安んじて王たらば、之を能く禦ぐ莫しと言はれてあります。必ずしも、刀を以て人を害めることのみを殺すと云ふのではありません、縦令ば、惡政を以て人民に臨むといふ事も、矢張り刀で人を殺すと同一であります、天下惡くにか定まる、一に定まらん、孰か能く之を一にするや、人を殺すを嗜まざる者、能く之を一にせんと、孟子梁惠王章句上支那を治むる方法は、掌を反すよりも易い、只人民を安堵せしむるのみであります。

第九

相共に合作す。  
 圓滿に解決す。  
 實際の問題。  
 意見を交換す。  
 最も必要なる場所。  
 關する所尤も大なり。  
 誠を開き公を布く。  
 中外に宣傳す。  
 外交内政。  
 共同シテ仕事スルコト。  
 誠意ヲ披擬シテ公道ヲ布クコト。

日一日に急なる。  
 果して行はるべきや否や。  
 尙疑問に屬す。  
 唯一の方法。  
 特殊の事情。  
 國策の遂行。  
 遺憾なきを期す。  
 社會の組織。  
 矛盾も亦甚し。  
 國際協調。  
 有無相通ず。  
 内容複雑。



發表し聲明す。

競争場裏。

熱心に研究す。

生産過剰。

民生日に蹙る。

經濟恐慌。

金融切迫す。

生活程度。

智識階級。

時代同じからず。

情形各別なり。

大に關係あり。

蹙ハ迫ノ意。

些の影響なし。

工事を與へて救済に代へる。

生死の分かるゝ所。

其の機先を制す。

主客顛倒す。

不即不離。

關係しない。

慣用の手段。

何ぞ事に濟さん。

既往を咎めず。

禍を轉じて福と爲す。

一杯の水を以て一車の火を消す。

似近非近之意。

無益ノ意味。

論語八份篇。

原を燎くの火。

陣に臨んで鎗を磨く。

緩にして急に及ばず。

物極まれば必ず反す。

捲土重來。

禍を人に嫁す。

居心測られず。

弱の肉は強の食。

優勝劣敗。

大同小異。

不思議がる。

無益ナルニ喩フ○孟子魯子上篇。

際限ナキノ意。

左傳隱公六年。

泥捧ヲ見テ繩ヲ縛フ意。

急場ノ間ニ合ハヌ意。

盛リ返シテ來ル意。

杜牧ノ題烏江亭詩○——未可知。

史記。

禍心ヲ包藏スルコト○匪ハ不ノ意。

韓愈ノ送浮屠文暢序。

莊子天下篇。

牟子○少所見多所怪見家駝謂馬腹背。

何とも云へぬ妙味。

何ぞ設想に堪へん。

一言で盡くす。

談何ぞ容易ならん。

一を聞いて十を知る。

心を專にし志を致す。

能むに止まれぬ。

中途で止める。

今聞いた事を今話す。

朝に聞いて夕に死す。

賢を賢とし色に易へ。

汝々として善を爲す。

想像ダニ餘リアリ。

論語爲政篇。

容易ノ話デナイ意。

漢書東方朔傳。

論語公冶長篇。

孟子告子上○今夫奕之爲教小也。不——則不得也。

論語子罕篇。

論語雍也篇。

論語問貨篇——得之樂也。

朝ニ立派ナ道ヲ開イタナラバ夕ニ死ス

トモ可ナリ○論語里仁篇。

論語學而篇。

汝ハ學ニ同ジ努力スル○孟子盡心○其

羊を亡つて後に羊小屋を修繕す。

戰國楚策○見兔而顧犬、未爲遲也、

未だ雨降らざるに綯繆す。

何ぞ子の迂なる。

猶ほ已むに勝れり。

此日何の日。

敵國外患。

外強く内乾く。

羊の性質で虎の皮。

揚子方言○或曰、有人焉曰、云姓孔而字仲尼、入其門、升其堂、伏其几、襲其裳、則可謂仲尼乎、曰、其文是也、其質非也、敢問質、曰、見其章而說、見其豹而戰、忘其皮之虎也、又後漢書劉焉傳論○——見豺則恐。

雨ノ降ラザル前ニ屋根ヲ繕フ  
詩經爾風鴟鴞  
○有是哉、迂濶ダ○論語子路篇  
止スヨリ好イ。

今ハ如何ナル惡時勢ゾヤ。  
孟子告子下○無——者、國恒亡。

外見強ク内容虛弱ナリ。  
左傳僖公十五年  
外見バカリノ意。

人心の同じからざる、  
各其面の如し。

衣は新しきに如かず、  
人は故きに如かず。

隴を得て蜀を望む。

苦に足るを知らず。

人多ければ天に勝つ。

倒行して逆施す。

人ノ心ノ異ナルハ丁度人ノ顔ノ異ナルニ同ジノ意。  
左傳襄公三十一年○子産曰、人心之不同也、如其面焉、吾豈敢謂子面如吾面乎。

着物ハ新シキガ好ク  
人ハ舊キ交ハリガ好イ。

晏子春秋○景公與晏子立于西潢之上、晏子稱曰、衣不如新、人不如故。

欲望ノ限リナキヲ云フ。

○隴ハ今ノ陝西隴縣ナリ○蜀ハ四川省。魏志○操曰、人苦無足、既——

史記伍子胥傳○吾聞之、——天定亦能勝人。

知リツ、間違ツタ事ヲ敢テスルノ意。

三日見ずんば、  
刮目して待つ。

運用の妙は、  
一心に存す。

利器有りと雖も、  
時を待つに如かず。

天を樂み命を知る。  
分に安んじ己を守る。

滿腔の熱血。  
舉國一致。

慷慨難に赴く。

王の憐る所に敵す。

大公私無し。

王道は蕩々たり。

虚心坦懷。

光風霽月。

史記伍子胥傳○伍子胥曰、爲我謝申包胥曰、吾日暮途遠、吾故——

三國誌吳志呂蒙傳注○蒙曰、士別三日、即刮目相待。

刮ハ摩スルノ意。進歩ノ速ナルヲ云フ。

戰略ハ活用ニアルノ意。  
宋史岳飛傳。

孟子公孫止上○齊人有言曰、雖有智惠、不如乘勢。

天命ニ安ンズルノ意。  
身分相應ニ行フノ意。

滿身ノ熱血○腔ハ胸腹中ノ空處ヲ云フ。

慷慨ハ奮起スル意。難ハ國難ナリ。

謝枋得却聘書○——易、從容就義難。

左傳文公四年○諸侯——而獻其功。

懐ハ怒ルナリ。

蕩々ハ平カニ廣キ意。  
書經洪範○無偏無黨、——。

虚心ハ無心○坦懷ハ廣ク平カナル意。  
有道者ノ形容ナリ。

宋史周敦頤傳○黃庭堅稱、其人品甚高、曾懷洒落、如——

詩經大雅抑○肆皇天弗向、如彼流泉、無淪  
晉以亡、——酒掃庭內、維民之望。

詩經小雅南山有臺○樂只君子、——

孟子公孫丑下○——失道者寡助、  
相ハ助クノ意。

吉人は天より助く。

道を得れば助け多し。

民の父母。

夙に興き夜に寝ぬ。

道を得れば助け多し。

吉人は天より助く。

道を得れば助け多し。

吉人は天より助く。

人各主の爲めにす。

地を易ゆれば皆然り。

孟子離婁下○禹稷顔子、

彼も亦人の子。

陶淵明ノ語○、可幸遇之。

盜賊も王の臣。

杜甫ノ句○、亦。

新進功を喜ぶ。

若輩ハ兎角功ヲ立テダガル。

庸人國を誤る。

不肖ノ者國家ヲ誤ル。

宴安は鳩毒。

安樂ハ毒藥ノ様ナモノデアル。宴安ハ享樂ノ意。

左傳閔公元年○、不可復也。

虎頭蛇尾。

龍頭蛇尾ニ向ジ。傳燈錄○可憐龍頭翻成蛇尾。

天步艱難。

國運ノ艱難ヲ云フ。

詩經小雅白華○、之子不猶。

禍は蕭牆に在り。

蕭牆ハ内部ニ潛在スル意。

土崩瓦解。

史記好皇本紀○秦之積衰、天下、

政とは正なり。

政ハ正ヲ主トスルノ意。政ハ正ト同音。

信無くんば立たず。

論語顔淵篇○自古皆有死、民、

天道親無し。

老子ノ語、史記伯夷列傳ニ見ユ。

常に善に與みず。

左傳隱公六年○親仁善隣、國之寶也。

善隣親仁。

惟れ國の寶。

國君仁を好めば、

盤、石城虎踞、袁帝王之宅。

又李白ノ詩○龍盤虎踞帝王州。

論語季子篇○吾恐季孫之憂、不在顛與、而在蕭牆之内也。

史記好皇本紀○秦之積衰、天下、

論語顔淵篇○自古皆有死、民、

論語顔淵篇○自古皆有死、民、

老子ノ語、史記伯夷列傳ニ見ユ。

左傳隱公六年○親仁善隣、國之寶也。

代として之れ無きはなし。

何時ノ世ニモ無イ事ハナイ、即チ有ルノ意ナリ。

女を玉成す。

艱難ハ汝ヲ玉成スノ意。宋張載ノ西銘○貧賤憂戚、庸玉汝於成也。

○今謂成全曰玉成本此。

國士無雙。

國士ハ一國キツテノ士。無雙ハ雙ビナシノ意。

史記淮陰侯傳○蕭何曰、諸將易得耳、至如信者、

大江東に去る。

詞調ノ名。大江ハ揚子江ナリ。

蘇東坡ノ詞○、浪淘盡千古風流人物、古壘西邊、人道是三國周郎赤壁亂石穿雲、驚濤拍岸、捲起千堆雪、江山如畫、一時多少豪傑、遙想公瑾當年、小喬初嫁了、雄姿英發、羽扇綸巾、談笑間檣櫓灰飛煙滅、故國神遊多情應笑我、早生華髮、人間如夢一尊還酹江月。

天は南北を限る。

魏ノ曹丕ノ語ナリ。

吳志孫權傳注○魏文帝至廣陵、臨江觀兵、有渡江之志、帝見、波濤洶湧、嘆曰、嗟乎、固天所以隔南北也、遂歸。

美なる哉山河。

史記吳起列傳○、固魏國之寶也、起曰、在德不在險。

龍盤虎踞。

地勢ノ要害ナルヲ云フ。六朝事迹○諸葛亮論金陵地形曰、鍾阜龍盤、

天下敵なし。

孟子離婁上○、

民を保つて王たらば。

掌を反すより易し。

是於反掌ハ事ノ甚ダ易キニ喩フ。

孟子梁惠王上○保民而王、莫之能禦也、○又漢書枚乘文○變所欲爲、

己れの欲せざる所は、

論語衛靈公篇○子貢問曰、有一言而可以終身行之者乎、子曰、其恕乎、

人に施す事勿れ。

論語里仁爲美○子曰、參乎、吾道一以貫之、曾子曰、唯、子曰、門人問曰、何謂也、曾子曰、

夫子の道は、

論語里仁爲美○子曰、參乎、吾道一以貫之、曾子曰、唯、子曰、門人問曰、何謂也、曾子曰、

忠恕のみ。

論語里仁爲美○子曰、參乎、吾道一以貫之、曾子曰、唯、子曰、門人問曰、何謂也、曾子曰、

第十

満は損を招き、謙は益を受く。

驕慢ナレバ損ヲ招キ、謙讓ナレバ益ヲ受クノ意。

書經大禹謨○、時乃天道。

霜を履んで堅氷至る。

事ノ漸ヲ以テ至ル○霜先ヅ降ツテ水ヲイテ結ブ、禍ヲ未然ニ防グノ意。

易坤卦〇——

幾を知るは其れ神か。

神速ニ機微ヲ察スルハ神ノ作用。

易繫辭上傳〇子曰、——君子上交不諂、下交不瀆、其知幾乎。

積善の家には必ず餘慶あり。

易繫辭〇——積不善之家、必有余殃。

言忠信行篤敬。

論語衛靈公篇〇子曰、張問行、子曰、——言忠信、行篤敬、雖蠻貊之邦、行矣。言不忠信、行不篤敬、

雖州里行乎哉。

德孤ならず必ず鄰あり。

有徳ノ人ニハ多數ノ人附隨シ來ルノ意ナリ。論語里仁篇。

苟くも日に新に、日に日に新に、又日に新にせん。

日々其徳ヲ新ニスル意ナリ。大學湯之盤銘。

工其の事を善くせんと欲せば、必ず先づ其器を利くす。

千萬人と雖も吾れ往かん。

孟子公孫丑上〇自反而縮、——

我れ言を知る、我れ善く吾が浩然の氣を養ふ。

人ノ言ヲ聽イテソノ眞偽ヲ知ルコト、並ニ善ク吾ガ浩然ノ氣ヲ養フト云フコトヲ解スルノ意。

孟子公孫丑上〇敢問、夫子惡乎長、曰、——我欲仁、斯仁至矣。敢問、何謂浩然之氣、曰、難言也。其爲氣也、至大至剛、以直養而無害、則塞天地之間、其爲氣也、配義與道、無是餒也。

苟も其の養を得れば、物として長ぜざることなく、苟も其の養を失はば、物として消えざるなし。

中人以上は以て上を語る可きなり、中人以下は以て上を語る可からざるなり。

荀モ榮養宜キヲ得レバ生長セザルモノハナク、榮養宜キヲ得ザレバ消滅セザルモノハナキノ意。孟子告子章。

人ヲ見テ法ヲ説クノ意、論語雍也篇。

鸚鵡能く言へども、飛鳥を離れず、猩々能く言へども、禽獸を離れず、今人にして禮無ければ、能く言ふと雖も、亦禽獸の心ならずや。

禮記曲禮。

鼠を相るに皮有り、人にして儀無からんや、人にして儀なくんば、死せずして何をか爲さんや。

禮無キ者ヲ警シムル意。皮儀爲ノ三字韻ヲ踏ム。詩經鄘風相鼠篇。

父や我を生み、母や我を鞠ふ。

詩經小雅蓼莪篇。

惟れ桑と梓と、必ず恭敬す。

桑ハ蠶ヲ養ヒ、梓ハ器ヲ作ル、故人ハ此二種ノ樹ヲ植エテ用ニ供フ。父母ノ種植スル所ノ樹ナルニ依リ、子孫ハ之ヲ大切ニスルナリ。桑梓ノ二字ヲ以テ故郷ト解スルハ之ニ基ク。詩經小雅小弁篇。

汝朝に去つて晩に來れば、則ち吾れ門に倚りて望む、汝暮に出で、還らざれば、吾れ閭に倚りて望む。

門ハ家ノ門、閭ハ町端レノ門ナリ。父母ノ子ヲ思フノ情ヲ云フ。論語顔淵篇〇子曰、——夫何憂何懼。

後生畏る可し、焉んぞ來者の今に如かざるを知らん。

青年ハ侮レヌ、後輩ハ先輩ニ及バヌナドト思フハ錯誤デアルノ意。論語子罕篇。

内に省みて疚しからず。

論語顔淵篇〇子曰、——夫何憂何懼。

戰國齊策○王孫賈事齊閔王王出奔賈失王之處其母曰女今事王王出走女不知其處女  
向何歸

何ぞや汝の所謂強とは、南方の強か、北方の強か、抑も汝の強か。

中庸○子路問強子曰、南方之強也、君子居之、衿金革、死而不厭、北方之強也、而強者居之、故君子  
和而不流、強哉矯、中立而不倚、強哉矯、國有道、不變塞焉、強哉矯、國無道、至死  
不變強哉矯。

己れを行ふに耻あり、四方に使して君命を辱めず、士と謂ふべし。

己レヲ行フニ耻アリトハ、ヨク士ノ心得ヲ守リ耻カシキ行爲  
ニ出デザルコト。○君命ヲ辱メズトハ、外國ニ使シテ能ク使命  
ヲ全ウスルノ意。

士は以て弘毅ならざる可らず、任重くして道遠し。

士タル者ハ寛大ノ度量ト、強キ信念ナカル可ラズ、其ノ責任ハ重クシテ、  
行ク道ハ又遠ケレバナリトノ意。

女王を待つて後興る者は凡民なり、若し夫れ豪傑の士は、文王  
無しと雖も猶ほ興る。 孟子盡心上。

我が門を過ぎて我が室に入らざるも我憾みざる者は、其れ惟  
郷愿か、郷愿は徳の賊なり。

門前ノ素通りサレテモ、一向腹立ダシイトモ感ゼヌハ、吾人ガ郷愿ニ對  
スルノ心持デアアル、彼郷愿ナル者ハ實ニ徳ノ賊トモ云フベキモノデア  
ル。

郷愿ハ何人ニモ撥ラ合ハセテ交際スル者ニシテ、八方美人ノ如キ者ナ  
リ。孟子盡心下○、同乎流俗、合乎汙世、居之似忠信、行之似廉潔、衆皆悅  
之、自以為是、而不可與入堯舜之道、故曰徳之賊也。

静以て身を修め、儉以て徳を養ふ。

澹泊に非ざれば以て志を明にするなし、寧靜に非ざれば以て  
遠きを致すなし。 以上二句三國志劉志ニ見エ。孔明其子ヲ諷ムル語。

臣死するの日内に餘帛あり、外に盈財ありて、以て陛下に負か

しめざるなり。

餘帛ハ許多ノ絹物、盈財ハ多額ノ貯蓄。○此語  
ハ即チ孔明ガ平素ヲ語リタルモノニシテ上  
文ノ澹泊ニ非レバ志ヲ明ニスルナシノ意。三國諸葛亮傳。

亮權に説いて曰く、海内大に亂る、將軍兵を起し、江東を據有す、  
劉豫州も亦衆を漢南に收め、曹操と並び天下を争ふ、今操大難  
を斐蔑し、略已に平げり、遂に荊州を破り、威四海に震ふ、英雄武  
を用ふるに處なし、故に豫州遁逃して此に至る、將軍力を量つ  
て之を處せよ、若し能く吳越の衆を以て中國と抗衡せば、早く  
之を絶つに如かず、若し當る能はずんば、何ぞ兵を案じ甲を束  
ね、北面して之に事へざるや、今將軍外は服従の名に託して、内  
に猶豫の計を懷く、事急にして斷ぜずんば、禍至ること日無か  
らん、權曰く、苟も君の言の如くんば、劉豫州何ぞ遂に之に事へ  
ざるや、亮曰く、田横は齊の壯士のみ、猶義を守つて辱められず、

況や劉豫州は王室の胄、英才世を蓋ふ、衆士慕仰する水の海に  
歸するが如し、若し事濟らざるも、此れ乃天なり、安んぞ能く復  
之が下とならんや、權勃然として曰く、吾れ全吳の地、十萬の衆  
を擧げて、制を人に受くる能はず、吾が計決せり。

莒莒ハ平定スルノ意。諸葛亮字ハ孔明、諡忠武、劉備ノ軍師タリ、備、曹操  
三國志、劉志、諸葛亮傳。○諸葛亮字ハ孔明、諡忠武、劉備ノ軍師タリ、備、曹操  
ト戦ツテ敗レ夏口ニ至ル、諸葛亮吳ニ赴キ、其主權ニ説イテ援兵ヲ出  
サシメ共ニ曹操ヲ防ギ、大ニ之ヲ敗ル。

第十一

既に醉ふに酒を以てし、既に飽くに徳を以てす。

詩經大雅既醉○、言飽乎仁義也。君子萬年、介爾景福。○又孟子告子  
章ニ、一曰、一曰、言飽乎仁義也。

一日見ざれば、三秋の如し。

詩經國風采芣○彼采芣兮、——、——、——、——、——、——

縱ひ我れ往かざるも、子寧ぞ音を嗣がざらん。

私ハ御無沙汰シテモ、貴下ヨリハ絶エズ音信ヲ下サレヨノ意ニ用ユ。  
詩經鄭風子衿○青々子衿、悠悠我心、——、——、——、——、——

我が心石に匪ず、轉ず可らざるなり。

心情ノ堅固ナルニ譬フ。  
詩經鄭風柏舟○——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——

我が心席に匪ず、卷く可らざるなり。

前ノ意ニ同ジ。  
詩經邶風柏舟

風雨晦の如し、鷄鳴已ます。

暴風雨ノ朝暗黒ノ如キ際ニモ鷄ハ時ヲ誤タズ鳴イテ居ル。  
世ノ中ガ如何ニ混亂スルモ、君子ハ正論ヲ唱ヘテ屈セザルノ意。  
詩經鄭風風雨○——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——

兄弟墻に閱げども、外其の侮を禦ぐ。

兄弟喧嘩ハシテ居ルモ、外敵來レバ協力シテ之ニ當ルノ意。  
務ニ作ル。  
詩經小雅常棣

鼓を撃つこと其れ鐘たり、踴躍して兵を用ふ。

軍樂ヲ奏シ出陣スルノ勇シキ形容。  
詩經邶風擊鼓○——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——

豈衣なしと曰はんや、子と袍を同じうせん。

着ルモノ無ケレバ、此ノ袍ヲ一緒ニ着テモ行カウノ意。  
比ンジテ戰爭ニ参加スル意。  
詩經秦風無衣○——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——

王事難多し、啓居するに違あらず。

國事多難ニシテ休息スル暇ナキ意。  
啓ハ跪クナリ。  
詩經小雅出車

旅力方に剛し、四方を經營す。

壯年ニシテ膂力正ニ強キニヨリ、四方ノ經營ニ任ズル意。  
旅ハ行ナリ。  
詩經小雅北山○嘉我未老、鮮我方將、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——

初め有らざるなし、克く終りある鮮し。

初メハ誰レモ爲ルガ終リマデ爲ル者ハ少イノ意。

詩經大雅蕩○天生蒸民、其命匪諤、——、——、——、——、——、——

君子屢盟ふ、亂是を用つて長ず。

屢盟ツテ屢違フ、亂ノ長ズル所以ナリ。  
詩經小雅巧言

黽勉心を同じうして、宜しく怒り有る可らず。

五ニ思ヒ造リ責メ合ハヌ意。  
黽勉ハ勉強ノ意ナリ。  
詩經邶風谷風○習々谷風、以陰以雨、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——

德音違ふなくんば、爾と死を同じうせん。

心變リガナケレバ死ヌマデ偕ニスルノ意。  
詩經邶風谷風

我より先んぜず、我より後にせず。

我ヨリ前ニモ無ク、我ヨリ後ニモ無ク、我レ獨リ此禍亂ニ遭遇スルト云フ不幸ヲ嘲ツ辭。自分ヨリ云出サズシテ人ニ云ハセントスルトキ等ニモ此句ヲ用ケルコトアリ。  
詩經小雅正月○父母生我、胡俾我嫠、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——

他人心あれば、予之を付度す。

人ノ心持ヲ能ク推察スル意。  
付度ハ思量スルナリ。  
詩經小雅巧言○奕々寢廟、君子作之、秩々大猷、聖人莫之、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——、——

鶴九臯に鳴いて、聲天に聞ゆ。

鶴ハ低キ澤ニ鳴クモ、聲ハ天ニ聞ユ(君子ハ野ニ隠レ居テモ、其徳ハ自ラ世ニ知レルニ喩フ)。  
臯ハ臯ニ同ジ澤ナリ。  
詩經小雅鶴鳴

既に明且つ哲、以て其の身を保つ。

專理ニ明カニ、事情ニ敏イ故ニ禍患ニカ、ラズ、恥辱ニ遠ザカルナリ。  
詩經大雅烝民

衡門の下、以て棲遲すべし。

賢者世ヲ避ケテ外ニ求ムル無キノ意。  
衡門ハ木ヲ横ヘテ門トナス、粗末ナル住居ヲ云フ。  
棲遲ハ柄ミ慣レテ樂ムノ意。  
詩經陳風衡門

豈其れ魚を食ふ、必ず河の魴のみならん。

魚ハ魴ニノミ限ラザルノ意。  
魴魚又魴魚トモ云フ。淡水ニ産シ其味美ナリ。  
詩經陳風衡門○—————、豈其取妻、必齊之姜。  
齊ハ大國、姜ハ齊ノ國君ノ姓。

赤しとして狐に匪ざるなし、黒しとして烏に匪ざるなし。

赤キハ皆狐、黒キハ皆烏、誰モ彼モ惡ノ同類ナルニ比ス。  
詩經邶風北風○—————、惠而好我、携手同車、其虛其邪、既取且

具に吾は聖なりと曰ふ、誰か鳥の雌雄を知らんや。

各自自分ヲ聖人ト云ツテ、誰ガ證明スルカ、則チ鳥ノ雌雄ヲ  
辨ジ得ザルト同ジノ意。

詩經小雅正月○召彼故老、訊之占夢、其曰吾聖、誰知鳥之雌雄。

逝將に汝を去つて、彼の樂土に適かん。

馳テオ前ト離レテ何處カ好イ處ニ行クデアラウ。墜取ニ苦ンデ他ニ移  
ラントスルノ意。

詩經魏風碩鼠○—————、樂土樂土、爰得我所。

豈弟の君子、民の歸する攸。

豈弟ハ道ヲ樂シミ心安ラカナル貌。

有徳ノ君ニ民歸服スルノ意。

詩經大雅洞酌○洞酌彼行潦、挹彼注兹、可以濯漑、—————

此の中國を惠んで以て四方を綏んぜよ。

先ヅ恩惠ヲ國都ニ施シテ後各地方ニ及ボス(先ヅ手近ナル處ヨリ始ム  
ル)ノ意。中國ハ國都、四方ハ各地方ノ意。

詩經大雅民勞○民亦勞止、汙可小康、—————

予明德を懷うて、聲と色とを大にせず。

徳ヲ本トシテ宣傳ヲ用ヒザルノ意。不長夏以革、不識不知、順帝之則。

周は舊邦と雖も、其の命は維新なり。

周ハ舊キ國ナルモ天命ヲ承ケテ新ニ王業ヲ成セリ。

詩經大雅文王○文王在上、於昭于天、—————

濟々たる多士、文王以て寧し。

濟々ハ多數ノ貌。人才多キヲ以テ文王ハ安寧ヲ得ラル。

詩經大雅文王○王國克生、維周之楨、—————

吉甫誦を作れば、穆として清風の如し。

吉甫、姓ハ尹、周ノ卿士ナリ。誦トハ詩ヲ樂章ニ作リテ歌フノ意。穆ト  
ハ深長ノ意。吉甫ノ詩ハ奥深クシテ萬物ヲ化育スルノ態アリトノ意。  
詩經大雅烝民ニ見ユ。

月の恆の如く、日の升るが如く、南山の壽の如し。

恆ハ上弦ヲ云フ。月ノ次第ニ滿ツル如ク、日ノ昇ル如ク、南山ノ永久ニ  
崩レザル如ク、益々隆盛ニ赴キ、永久ニ變ラザルヲイフ。  
詩經小雅天保○—————、不爾或承、

彼の兕觥を稱げん、萬壽疆りなし。

杯ヲ舉ゲテ萬歲ヲ祝スノ意。兕觥ハ兕牛ノ角ノ盃。(兕ハ野牛ニ似テ  
一角ナル獸)。  
詩經幽風七月○躋彼公堂、—————

### 家庭常用語

長老に事ふ(婦人の會話)

お目醒めですか。どうぞお茶を召し上れ。煙草を一服お請  
め致しますせう。今日はお出かけになりますか。何方へお出  
ましますか。朝早くお出かけですか、御飯後になさいませか。  
御飯の仕度に参ります。着物はどれをお召しですか。今日  
は天氣がお熱う御座いますから、裕をお召しなさいませ。袖  
無しをお召しになりますか、羽織をお召しになりますか。皺  
を引張つて差上げませう。襷を押へて差上げませう。お歸り  
なさいませ。お疲れで御座いませう。お顔を拭きなさい  
ませ。御召換をなさいませ。妹やお父さんのお手水のお世

話をなさい。着物を疊みまして御飯の用意を致しませう。まあお酒を飲んでいらつしやいませ、御飯は今直ぐ出来ますから。今日は町は埃がひどく御座いましたか。今日は誰方もお見えになりませんでした。今日叔父さんもお見えでした。たゞお訪ねになつただけで、別に御用ではありませぬ。今日はお早くお寝みなさいませ。外に何かお入用ですか。お床はチャンと敷きました。痰壺燭臺烟管等は皆揃へて置きました。どうぞお寝みなさいませ。

【註】「撮」ハ着物ノ弛ミヲ引伸バヌ意、又換ニ作ル。「阿媽」ハ滿洲語ニテ父ノ意。

## 幼者を扱ふ

弟や起きる時分ですよ。九時です、早く學校へお出でなさい。

學校が退けたら直ぐお歸り、途中で遊んで居てはいけません。お歸りなさい。如何して此様に早く歸つて來ましたか。大人しく遊んで來るので、よ、惡戯してはいけません。あれはお前より小さいのだから、お前は負けて居なさい。お前はあれを連れて町へお出でなさい。車や馬に氣を附けて、好く手を引いておやりなさい。遠くへ行かずに、早く歸つてお出で。お金を上げるから、お玩具を少し買つて來てお遣りなさい。あれが歩けなくなつたら、抱いて歸つてお出でなさい。

## 客を款す(初對面)

御名前は。御宅は何方ですか。貴方は張叔父さんですか。父は不在ですが、どうぞお入り下さい。始終父からお噂を承

つて居りましたが、私共はお初にお目に懸ります。叔母様はお變り御座いませんか。坊ちゃんやお嬢さんはお達者ですか。どうぞお茶を召し上りなさいませ。父に御用でお出でになりましたのですか。心にお懸け下さいまして有難う存じます。ハイ父が歸りましたら、申し傳へます、まあ宜しいではありませんか、恐れ入りました。お歸りになりましたら、叔母様やお嬢様に宜敷く申上げて下さい。

【註】「兄弟」妹妹ハ此處ニテハ張二叔ノ子女ヲ親シミテ云ヘルナリ。

## 普通の對面

伯母様入らつしやいませ。御機嫌宜しう、伯父様は御變り御座いませんか。如何して暫く御見えになりませんでしたか。

丁度お見えになれば好いと思つて居りました處です、今日は御寛りなさいませしても宜しう御座いませう。如何して某子さんをお連れにならなかつたのですか。今日は泊つていらつしやいませんか。それではお車をお歸し致しませう。二人で寛りお話致しまして、晩方お歸りなさいませ。何と仰言つてもお歸し致しません、お嫌でも一日御遊び下さい。伯父様は相變らず御勤めですか。今日はこんなにお熱い處を御遠方御尋ね下さいました上、頂戴物まで致しまして有難う御座います。

母は義理合の事で出かけました、出がけに若し伯母様がお見えになつたら、お留め申せ、多分晚餐には着かずに歸つて來るからと申置いて行きましたのに、若しお引留め致しませんで



したら、母に叱られるではありませんか。今日は何の用意も致しません。有合せですのに召上つて下さらないのですか。御遠慮なさらずに充分召し上つて下さい。御口をお漱ぎ下さい。檳榔子を召上りませんか。煙草を召上れ。

【註】「屈尊」ハ客ヲ引留ムル場合ニ用ユル敬語ナリ。母親不説我麼ノ説

ハ叱ルノ意。賞賚ハ顔ヲ立テルノ意。的當ハ充分ノ意。滿洲語ノ婦人用語。

吉凶の挨拶

御目出度う御座います。今日は本来母が自分でも喜びに伺ふ善で御座いましたが、二三日前から風邪を引きましてまだすつかり快くなりませんので、私が代りましてお喜びに伺ひま

した。是れはほんの御印です(金包を渡し、又は祝物を入れた小箱を差出しお辭儀をする)。何時御迎への御輿をお出しになりますか。御嫁様のお里は何方ですか。御介添は誰方にお頼みでしたか。(宴席に就く)私に御構ひなく、どうぞ御客様をお先に、それに私は家の者同様ですから、御手傳ひしなければなりませんのです。私はそんな高上りは致されません。仰せに遵ひます。伯母様、私はお先に御暇致し度う御座います。御苦勞様でした。どうぞ致しまして。御愁傷様です。御亡くなりにならうとは思ひもよらぬ事で御座いました。兩親の吩咐でお悔みに伺ひました。これは叔父様に紙を買つて上げるのですが、どうぞ御納め下さい。明日何時頃御出棺ですか。お氣をお落し

にならぬ様に、御壽命ですからお諦めになるより外は有りません。御墓は何方ですか(着席並に暇乞は前と同じ)。

【註】「姪女兒」ハ本来姪ノ意味ニシテ父母ノ知人ニ對スル自稱ナリ。兄

弟「妹妹」ハ結婚ノ當事者ナリ。打紙的ハ香奠ノ義ニシテ支那ニテハ葬式ノ際紙ニテ造レル馬、錢共ノ他ノ模型ヲ燒ク風習アリ、其紙代ヲ打紙的ト云フ。

勉學

先生御機嫌宜う。先生、何から始めましたら宜しう御座いますか。此の意味がよく分りません。どうぞもう一度御説明を願ひます。此の字は何聲ですか。有氣音ですか、無氣音ですか。此の言葉は何の字が重念ですか。私は読み方は間違つて居りませんか。私の發音は如何ですか。此の字は如

何書きますか。明日私は用事が御座いますから、一日休ませて頂きます。是れは粗品ですが、先生に差上げます。學校へ行く時間です。學校から歸つて参りました。毎日二時間の授業です。私は作詩の稽古をして居ます。私は繪を習つて居ます。私は二年生です。同級生は十人です。明日は先生が御用で一日御休みです。私は少々話せますが、まだ旨く参りません。どうぞ十分御教へを願ひます。私は生來愚鈍で何時迄も上達しませんのに、御褒めに預つて恐れ入ります。

交際の心得

先生に御尋ね致します、私は御國へ行かうと思ひますが、交際上の禮儀を心得ませんと、人の感情を害するかも知れません。

から、どうぞお教へを願ひます。それではごつと話して上げませう。初對面の人に向つては、貴方の御名前は、貴方の號は、御宅は、貴方の御役所はと尋ねる事は宜しいが、決して名を尋ねてはいけない、若し名は尋ねると、先方は感情を害するであらう。二三回會つた人に對し、縦ひ其姓や號を忘れて居ても、重ねて尋ねてはならない、若し重ねて尋ねると、先方は自分の事を心に留めて置かないと思つて、快く思はない、御兩親はお揃ひですか、御兄弟は御幾人ですか、御年は幾つ(高壽は老人に對して用ふ)等と尋ねるは宜しい、尙先方の嗜好は何であるかを知らなければならぬ、例へば烟草の好きな人には、烟草の有害なることを言うてはならず、酒の好きな人には、酒は健康に害がある等と言うてはならない、是等は皆世間交際上の秘

訣である。

訪問した時、若し主人が烟草を勧めたり、茶を注いで呉れたりしたならば、起立しななければならぬ、縦ひ下男が茶を出しても一寸頭を下げるべきである、若しさうしないと、横柄と見られ、人に嫌はれる。

客となつたからには、主人が多忙か如何かを察しなければならぬ、若し何も要談が無かつたならば、人が厭がる故、餘り長座をしてはならない、若し人を誘つて遊びに行くとか、或は食事に案内する際、一言で應ずることはない、人は必ず用事が有ると斷る故、眞に受けずに、更に一度懇切に勧めて見る、若し先方に其の意嚮が有れば承諾するが、若し實際用事が有るならば、それは更に強ひてはならない。

若し主人となつた時には、更に注意しなければならぬ、客の訪問を受けたる場合、餘り懇意でない友人ならば、門口迄出迎へ、懇意な友人ならば、玄關口まで出迎へなければならぬ、客が部屋に入つてから初めて椅子から立ち上るといふことは、それは失禮となる、或時私が或外國人に歸りの挨拶をした處、彼は椅子から離れることすらもしなかつたので、私はそれ以來永久に彼を疎んずるに至つた、彼は無意識であつたのであるけれども、私は畢竟故意に私を輕蔑したのではないかと疑つたのである、客の歸りを見送る際には、親疎を問はず、必ず門外迄送らなければならぬ、客と對談する時は、愛嬌を湛へ、何かと話題を捉へて話してこそ、客は長座し得ることが出来る、是れは外面上の詰らぬ儀禮ではあるが、併し決して忽せに

してはならぬ事である。

例へば人を訪問する際、如何に主人と親密なる間柄にせよ、必ず玄關で一言聲を掛けるべきであつて、ヅカヅカと中へ入つてはならない。

例へば三四人の客が同時に訪問して來た場合、應對は尙更難しい、若し同席して差支へ無い者は同室に案内し、各自に相當の挨拶をなすべきで、單に一人と話を交へてはならない、若し話さなければならぬ要談が有れば、先づ相客に向ひ、失禮ですが私は某君と要談が有りますから、諸君は暫く話をなすつて居て下さいと言はなければならぬ。

婦人の客との交際は特に面倒である、必ず何事にも慎み深くし、大聲に談笑してはならない、縦ひ眞面目な話の中にも言う

てはならぬものが多々ある、凡そ婦人の髪形、簪、着物、靴等に至る迄濫りに讃辭を呈してはならない。

若し友人が家族同伴の場合には、決して素足で行つてはならない、來客に茶を注ぐ時には、半分注いではならない、飲み終つたら直に注ぐことである、品物の贈答には必ず偶數で、奇數であつてはならない、二四六八等の數は何れも宜しい、これは皆吾等兩國の相反する風俗であつて、知つて置かなければならない事である。

急就篇總譯 終

昭和八年七月二十日初版發行  
 昭和九年七月廿一日初版發行  
 昭和十年七月廿一日初版發行  
 昭和十一年八月十日初版發行  
 昭和十二年三月十日初版發行  
 昭和十三年三月十日初版發行  
 昭和十四年三月十日初版發行  
 昭和十五年三月十日初版發行

昭和十六年一月十日第廿三版發行  
 昭和十六年二月十日第廿四版發行  
 昭和十六年三月十日第廿五版發行  
 昭和十六年四月十日第廿六版發行  
 昭和十六年五月十日第廿七版發行  
 昭和十六年六月十日第廿八版發行  
 昭和十六年七月十日第廿九版發行  
 昭和十六年八月十日第三十版發行

定價六十錢



編輯者 宮島 大八  
 東京市澁谷區千駄ヶ谷町五丁目三十七番地

印刷人 小坂 孟  
 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發行所 善鄰書院  
 東京市麴町區麴町五丁目七番地

印刷所 大日本印刷株式會社  
 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發賣所 文求堂書店  
 東京市本郷區本郷二丁目二番地

(日本標準規格 A 列 6 號判)

宮島 大八 著

急就篇

定價金六十錢  
書留送料拾六錢

宮島 大八 著

支那語會話篇

定價金壹圓貳拾錢  
書留送料拾九錢

宮島 大八 篇

支那官話字典

定價金貳圓貳拾錢  
書留送料金貳拾貳錢

善隣書院 篇

羅馬字急就篇

定價金六拾錢  
書留送料拾六錢

善隣書院 篇

急就篇發音

定價金參拾五錢  
書留送料拾參錢

康樹蔭 宮島貞亮 共編

注音符號速知

定價金六拾錢  
書留送料拾參錢